

目黒区立大鳥中学校の統合による成果・課題の検証結果報告書

平成29年2月

南部・西部地区の区立中学校の適正配置に向けた検討会

目次

はじめに	1
第1 大鳥中学校の現状	1
第2 大鳥中学校の統合の取組み	4
1 統合の取組みの概要	4
2 統合の具体的な取組み	5
3 適正規模化の実現	18
第3 大鳥中学校の統合による成果・課題の検証結果	21
1 検証の概要	21
2 アンケート結果の概要	24
3 【検証項目】全体及び学校規模	25
4 【検証項目】統合による生徒の変化等	33
(1) 学校生活	33
(2) 標準服、体育着	41
(3) 施設環境	44
(4) 通学区域	48
5 【検証項目】統合による教育効果等	53
(1) 学習指導	53
(2) 学年経営、学級経営等	58
(3) 特色ある教育活動	62
(4) 特別活動	67
(5) 教職員の負担	72
(6) 大鳥中学校と保護者、地域との関係	76
(7) 統合の過程	80
第4 大鳥中学校の統合による成果・課題	86
1 成果	86
2 課題	88
第5 南部・西部地区の区立中学校の統合に関する課題	89
参考資料	91

はじめに

大鳥中学校は、平成27年4月1日に旧第三中学校と旧第四中学校を統合して開校した。本年度で2年目を迎え、統合の過程を経験した生徒が最終学年である3年生となっている。

区最初の統合校である目黒中央中学校については開校5年目の平成22年度に統合評価を行ったが、評価委員会において複数の委員から「統合の過程の最中にいた子どもたちの意見を聞きたかった、聞くべきであった」という意見があった。

このような発言を受け、本年度を検証を行う機会と捉え、生徒たちの意見を聞くことにより統合における成果及び課題をまとめ、大鳥中学校の運営及び南部・西部地区の区立中学校の統合の取組みに活かすため検証を行ったものである。

第1 大鳥中学校の現状（平成28年度）

(1) 所在地 目黒区下目黒三丁目23番18号

(2) 生徒数・学級数（平成28年5月1日現在）

通常の学級								特別支援学級					
生徒数				学級数				種別	在籍者数				学級数
1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計		1年	2年	3年	計	
131	119	131	381	4	3	4	11	5組	4	6	5	15	2
								わかたけ学級	2	0	1	3	1

(3) 教職員数（平成28年5月1日現在） 31人

校長、副校長、主幹教諭3人、主任教諭7人、教諭14人、養護教諭1人、事務2人、栄養士1人、非常勤教員1人

(4) 通学区域

中目黒四丁目（7番～10番）、三田一丁目、三田二丁目、目黒一丁目、目黒二丁目、目黒三丁目、目黒四丁目、下目黒一丁目、下目黒二丁目、下目黒三丁目、下目黒四丁目、下目黒五丁目、下目黒六丁目、中町一丁目、目黒本町一丁目

(5) 学校施設 地上4階・地下1階

(6) 教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、国際社会で大きく羽ばたく生徒を育成する。

○自主 (Initiative) ○協働 (Collaborative) ○創造 (Creative)

(7) 特色ある教育活動

○人権教育の推進

- ・いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議、人権作文・講話等の充実
- ・特別支援学級との交流及び共同学習の充実

○英語によるコミュニケーション能力の育成

- ・「いつでもどこでも英会話」の実施
- ・英会話教室、E (イングリッシュ) キャンプの実施

○社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成

- ・実践的な職業体験、多様な職業人から学ぶ教育の充実

- ・第1学年からの進路指導の充実
- ・生徒会を中心とした学校行事の運営強化

(8) 年間行事

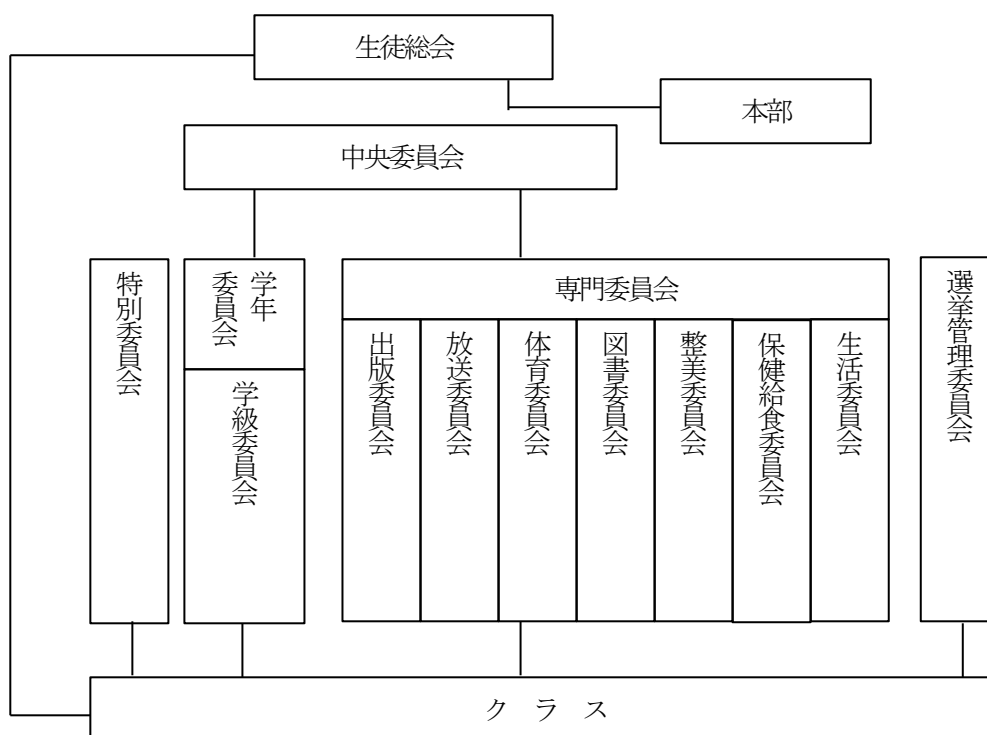
月	内 容
4月	始業式、入学式、対面式、3年音楽鑑賞教室
5月	生徒総会、運動会、3年修学旅行
6月	前期中間考査、2年職場体験、1年八ヶ岳自然宿泊体験教室
7月	小学生体験授業・部活 進路を考える日
8月	三者面談、Eキャンプ、英会話教室、道徳地区公開講座
9月	前期期末考査、区連合体育大会、セーフティ教室
10月	生徒会選挙、飛翔祭(舞台)、特別支援学級連合運動会
11月	2年区連合音楽会、後期中間考査、3年グループ面談、3年進路面談
12月	三者面談、5組わかたけ学級舞台発表、いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議
1月	1年職場訪問、2年校外学習、連合展覧会
2月	5組校外学習、後期期末考査、新入生保護者説明会
3月	飛翔祭(展示)、三送会、卒業式、修了式

(9) 部活動 19部

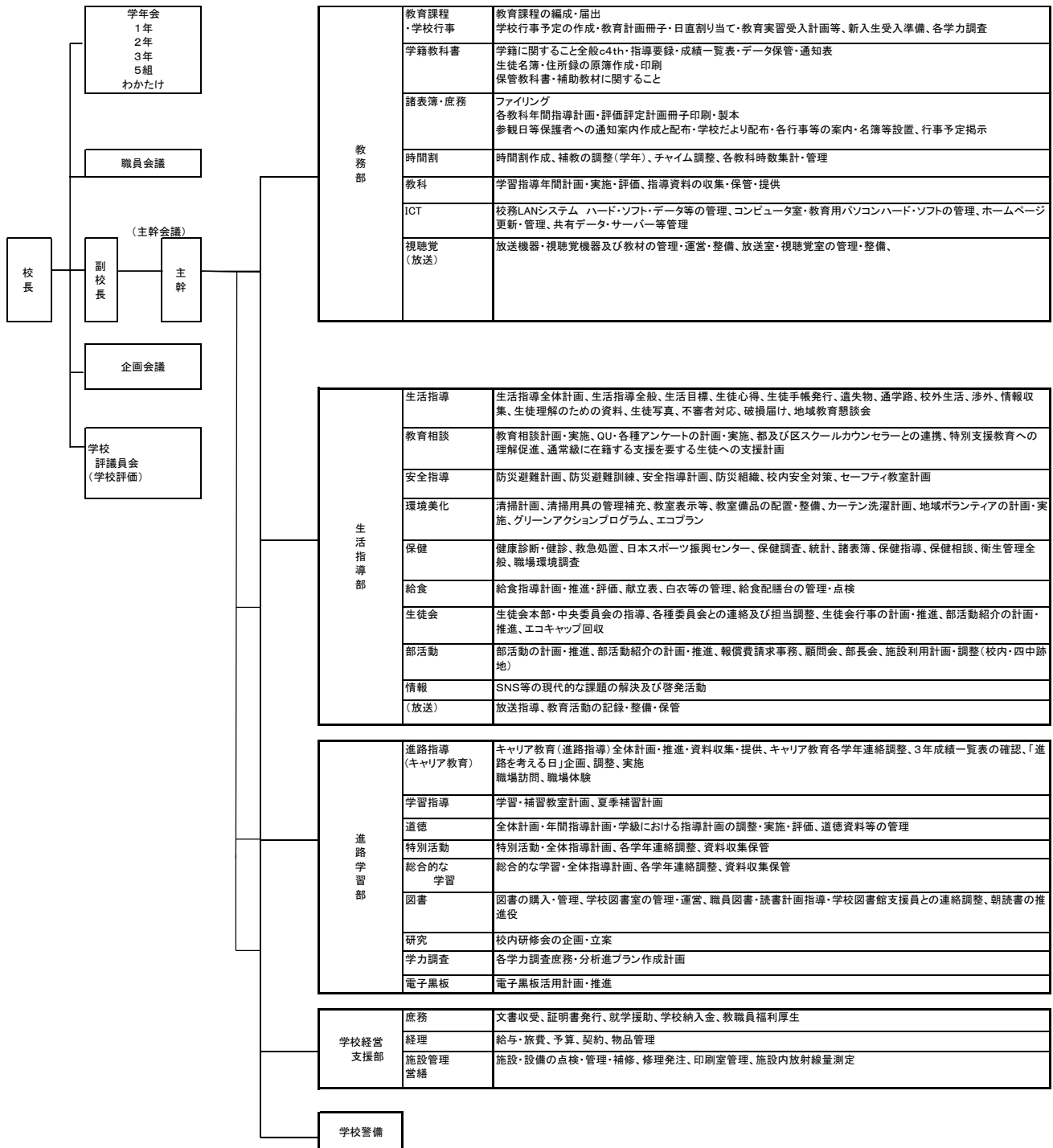
バスケットボール部、サッカー部、女子バレーボール部、卓球部、バドミントン部、硬式テニス部、軟式野球部、水泳部、陸上部、ダンス部、演劇部、吹奏楽部、家庭科部、模型部、コンピューター部、英語部、茶道部、美術部、5組クラブ

(10) 生徒会活動

会員（大鳥中学校生徒）の自主性を尊重し、その向上を図ること、学校生活の向上を図ること、会員全体の協調と連体を深めることを原則として、生徒総会、各種委員会において活動する。



(11) 校務分掌組織



(12) 地域との関係

ア 地域教育懇談会の設置

イ 地域からの協力(図書ボランティア、社会を明るくする運動、集団討論の面接委員等)

ウ 地域行事への中学生ボランティアの参加(さんま祭り、地域教育懇談会主催「つなフェスタ」、住区まつり等)

第2 大鳥中学校の統合の取組み

1 統合の取組みの概要

(1) 統合のねらい

教育委員会は、区立中学校の小規模化を解消し、充実した教育環境の整備を図るため、平成15年9月に区立中学校の統合方針として「望ましい規模の区立中学校の実現を目指して」を策定した。これに基づき、平成18年4月に旧第二・第五・第六中学校を統合し、区初の統合新校である目黒中央中学校を開校した。平成22年度には、同校が新校舎に移転して3年目を迎えることから統合の効果等を検証することとし、平成23年2月に目黒中央中学校統合評価委員会において目黒中央中学校統合評価報告書を取りまとめた。教育委員会では、この統合評価結果を参考にしながら、さらなる区立中学校の適正規模・適正配置の推進を図ることとし、統合方針の改定に向けて検討を進めた。

平成24年3月時点で統合方針において統合の対象となっている東部地区の2校（第三・第四中学校）と南部・西部地区の4校（第七・第八・第九・第十一中学校）は、いずれも学級数、生徒数とも望ましい学校規模を満たしていない状況で、統合方針を策定した平成15年度当時の状況と変わっていなかった。対象となっている学校の中では、第三中学校が最も学校規模の小さい区立中学校となっていた。このような状況を踏まえ、第三中学校と第四中学校の統合を実施することとし、平成24年3月に統合方針を改定し、平成27年4月に新設中学校を開校することを目標とした。

統合方針においては、学級数で11学級以上、生徒数で300人を超える学校規模が望ましいと考えている。大人への過渡期にある中学生にあっては、他の生徒や教員との豊かで多様な人間関係の中で、自分の考えを見直したり深めたりしながら、他人を思いやる心や自己の考えを実現できる能力をはぐくみ、「生きる力」を身に付けていくことが極めて大切である。また、現行制度上11学級の学校には正規教員を5教科で各2人配置できるなど、多様な教育内容の提供や、一人の生徒に対する異なった視点からの評価などを可能にするほか、同一教科の担当教員間の教科研究面においても望ましく、教員の校務負担を分散できるという効果をもたらす。

このようなことから、活力ある学習活動を展開し、集団の中で豊かな人間関係をはぐくみ、充実した学習・指導体制を整えることをねらいとして、統合によりその実現を図るものとした。

(2) 統合までの経過

統合にあたっては、新設中学校の開校に向けた協議組織を設けるとともに、第三・第四中学の2校合同による統合準備組織を置き、必要な事項の協議・検討を進めた。

統合までの主な経過は次のとおりである。

- 平成24年3月 統合方針「望ましい規模の区立中学校を目指して」改定
- 平成24年5月 「第三中学校・第四中学校の統合新校推進協議会」設置
- 平成25年3月 「第三中学校・第四中学校の統合新校整備方針」策定
- 平成25年6月 「統合新校開設準備委員会」設置
・専門部会として「教育計画当部会」、「校章・校旗、校歌部会」、「標準服部会」を設置。

- 平成25年12月 目黒区立学校設置条例の一部を改正する条例公布
- 平成26年4月 大鳥中学校開設準備担当校長設置(第四中学校長が就任)
 - ・これに伴い「統合新校開設準備委員会」を同校長を委員長とする「大鳥中学校開設準備委員会」に改組
- 平成27年4月 大鳥中学校開校

2 統合の具体的な取組み

(1) 統合方針「望ましい規模の区立中学校の実現を目指して」改定

ア 目黒中央中学校統合評価

統合新校として平成18年4月に開校した目黒中央中学校について、平成20年4月の新校舎移転から2年が経過したことから、統合に向けて目指した学校づくりが当初のねらいどおり達成されているのか、教育委員会は、統合の効果等を検証することにより成果や課題を明らかにし、新たな統合方針策定の参考とするため統合評価を行うこととし、目黒中央中学校統合評価委員会を設置した。委員会では、平成22年11月から平成23年1月にかけて計3回、計画策定過程、計画実施過程及び教育活動の展開過程における検証を踏まえ統合評価の検討を行い、平成23年3月に報告書をまとめた。

「目黒中央中学校統合評価報告書」概要

1 統合の成果

- (1) 3校統合により目指した趣旨や方針について
 - 望ましい規模の中学校が実現された
 - 特色ある学校づくりが進められた
 - 地域との連携が引き継がれた
- (2) 統合に向けたスケジュール及び体制づくりについて
 - 新しい学校づくりを地域ぐるみで推進できた
 - 検討組織は整備方針の策定等に向け十分機能した
 - 十分な協議・検討期間が設けられた
 - 統合に向けて効果的な教育活動が行われた
- (3) 統合新校・目黒中央中学校の学校生活について
 - 教科教室を活用した授業の充実が図られた
 - ICT授業システムの導入により授業改善が深められた
 - 学校行事や部活動の活性化が進み多彩に展開された
 - 生徒数増により人間関係が広がった
 - 教員体制の充実とともに授業研究・研修への意識が高まった
 - 家庭・地域との連携が進められている

2 統合の課題

- (1) 3校統合により目指した趣旨や方針について
 - 統合新校の特色の継続的な周知
 - 統合新校の学校像の早期策定と周知
- (2) 統合に向けたスケジュール及び体制づくりについて
 - 新校を支える関係組織との検討段階からの連携
 - 検討組織の情報発信のさらなる工夫
 - 統合推進体制の充実
 - 統合に関する教育関係資料の継承
- (3) 統合新校・目黒中央中学校の学校生活について
 - 新校舎の特徴を生かした施設活用の工夫
 - 生活指導等の難しさへの配慮
 - 小学校や地域との連携の難しさへの対応
- (4) 今後の統合に当たっての配慮事項

- 推進協議会等の検討組織は早期に立ち上げる
- 統合新校の「学校像」や特色ある教育活動について十分に周知する
- 保護者や地域住民への情報提供を密に行う
- 統合する学校間や学区内の小学校との交流活動は計画的に進める
- 通学区の設定に当たっては地域の実態を考慮する
- 統合前後の教職員配置については十分留意する
- 学校統合の成果等について検証できるよう取組む

イ 統合方針改定

教育委員会では、目黒中央中学校統合評価報告書を参考にしながら、さらなる区立中学校の魅力づくりに向けて、区立中学校の適正規模・適正配置の推進を図るため、統合方針の改定について検討した。

統合方針を定めた平成15年度当時との比較でも生徒数及び在籍率は下がっており、区立中学校の小規模化の進行には歯止めがかかっていなかった。区立中学校の小規模化は、活力ある学習活動や部活動の展開に制約を生み、学習集団が固定化したり、集団活動を通じた人間関係の広がりや十分とはいえなくなるなど、教育活動において、さまざまな影響が生じてくる。大人への過渡期にある中学生にあつては、他の生徒や教員との豊かで多様な人間関係の中で、自分の考えを見直したり深めたりしながら、他人を思いやる心や自己の考えを実現できる能力をはぐくみ、「生きる力」を身につけていくことが極めて大切であり、充実した教育環境の整備に向けて、区立中学校の適正規模化がより急がれる状況にあつた。

統合の実施にあつては、学校規模の状況が平成15年度当時と大きくは変わっていないことから、統合方針の考え方を継承して進めていくこととした。

- 従来の統合方針を継承する主な内容
 - ・ 望ましい学校規模の考え方（学級数で11学級以上、生徒数で300人を超える学校規模が望ましいと考える。）
 - ・ 望ましい学校規模と想定される学校数（北部・東部・中央・南部・西部の各地区に少なくとも1校の配置を基本とし、東部地区の2校を1校に、南部・西部地区の4校を2校程度に統合し、中学校数を7校程度と想定する。）
 - ・ 東部・中央地区における統合の実施（東部・中央地区における統合を優先して行うこととした従来の統合方針に沿って、引き続き東部・中央地区の中学校統合を進める。）
- 新たに変更・追加する主な内容
 - ・ 校舎の大規模改修・改築時に捉われない統合の推進（中学校の適正規模化がより急がれる状況にあることから、校舎の大規模改修・改築時に捉われることなく既存校舎を活用しながら統合を進めていく。）
 - ・ 南部・西部地区における統合の方向性（南部・西部地区において統合の対象となっている4校の具体的な統合実施策の策定に向けて検討を進めていく。）

目黒中央中学校統合評価報告書では、今後の統合にあつての配慮事項として、統合する中学校間や通学区内の小学校との交流活動の推進、保護者や地域住民への十分な情報提供

といった事項が示された。教育委員会では、前回の統合時と同様に、これらの点に留意して新たな統合を進めていくこととした。

統合方針の改定に当たっては、平成24年1月から2月にかけて、区民説明会を3回、個別説明会を8回実施した。

以上により平成24年3月に統合方針を改定した。

ウ 統合方針における具体策

統合方針において、第三中学校と第四中学校の統合の具体策を次のとおり示し、これに基づき統合を進めた。

(ア) 新設中学校が目指すもの

新設中学校は、「魅力と活力にあふれ、信頼される学校」を目指すことを基本に、第三・第四中学校の2校の伝統や校風、地域特性などを踏まえながら、学校関係者、保護者、地域の方々等による協議を通じて進めていくこととした。

(イ) 統合移行期間中の留意事項

第三・第四中学校の生徒が安心して実りある学校生活を送れるよう、配慮をしていくこととした。

(ウ) 新設中学校の実現に向けたスケジュール

平成27年4月に新設中学校での授業を開始することを目標に進めることとした。なお、取組みにあたっては、目黒中央中学校統合評価報告書で示された「今後の統合にあたっての配慮事項」に留意しながら次のとおり進めていくこととした。

平成24年度	
協議組織等の設置と課題の協議・検討	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成24年度の早い時期に新設中学校の開校に向けた協議組織(構成員は学校関係者、保護者、地域の方々等)を設けるとともに、2校合同による統合準備組織(構成員は2校の教員等)を置き、新設中学校の開校に向けて、必要な事項の協議・検討を開始します。 ◇ 協議組織(学校関係者、保護者、地域の方々等で構成) 新設中学校の基本的な事項(学校の位置、通学区域、校名等)について、協議します。新設中学校の位置については、他の項目に先立って協議します。以降、通学区域、校名の選定方法等について順次協議をしていきます。併せて、校章・校旗、校歌、標準服の検討に向けた課題整理等を行っていきます。 ◇ 統合準備組織(教員等で構成) 新設中学校の実務的な事項(教育目標、既存校舎の整備内容等)について、検討します。新設中学校の教育課程や学校組織についての課題整理等を行うとともに、移行期間中の学校行事、部活動等の交流内容等について検討していきます。
整備方針の策定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協議組織等による協議・検討結果に基づいて、整備方針(案)をまとめ、公表し、関係小・中学校の保護者をはじめとする区民の皆さんからご意見をいただいたうえで、整備方針を策定します。
平成25年度	
整備方針に基づく基本的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協議組織・学校・教育委員会が連携して、整備方針に基づいて基本的な取り組みを進めます。 ◇ 新設中学校の校名を選定します。 ◇ 既存校舎を活用した整備に着手します。 ◇ 第三・第四中学校の生徒間の交流活動を開始します。 ◇ 第三・第四中学校の教員間で、教育課程編成や学習評価基準等について検討します。 ◇ 校章・校旗、校歌、標準服等について検討します。

平成26年度	
整備方針に基づく開校準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き、協議組織・学校・教育委員会が連携して、整備方針に基づいて開校準備を進めます。 ◇ 引き続き、既存校舎を活用した整備を進めます。 ◇ 引き続き、第三・第四中学校の生徒間の交流活動を進めます。 ◇ 新設中学校の教育計画を策定します。 ◇ 校章・校旗、校歌、標準服等を定めます。
平成27年度	
新設中学校の開校	○ 平成27年4月を目標に、新設中学校での授業を開始します。

(2) 協議組織等の設置と課題の協議・検討

新設中学校の開校に向けた協議組織として「第三中学校・第四中学校の統合推進協議会」を設けた。また、教育に関する実務的な検討、課題整理を行う教育委員会事務局の内部検討組織として「目黒区統合新設中学校教育活動等検討委員会」を設けた。

ア 第三中学校・第四中学校の統合新校推進協議会

平成24年5月に2校の通学区域内の保護者・地域・学校及び教育委員会で構成する「第三中学校・第四中学校の統合新校推進協議会」を設置し、新校についての基本的な事項（統合新校の位置、統合新校の通学区域、移行期間中の2中学校に関する基本的対応策、統合新校の校名等についての課題等）について、平成24年5月から11月にかけて8回の会議を開催し協議した。学校の位置、施設の改修や整備の必要性について検討するうえでの判断材料とするため第三・第四中学校の施設見学会を行った。協議会における協議経過等を保護者や地域に周知するため「第三中学校・第四中学校の統合新校推進協議会だより」を平成24年から12月まで8号発行した。

イ 目黒区統合新設中学校教育活動等検討委員会

統合新校整備方針の策定、統合移行期間中の具体的取り組みに当たり、教育に関する実務的な検討、課題整理を行うため、第三中学校及び第四中学校の教員を中心として構成する目黒区統合新設中学校教育活動等検討委員会を設置した。所掌事項は、①教育活動及び教育内容に関すること、②関係小学校との連携に関すること、③教育課程及び評価規準に関すること、④その他、統合新設中学校の教育活動に関する実務的な事項の検討及び課題整理である。平成24年8月から平成25年2月にかけて6回開催した。

以上の検討で得た結果を統合新校推進協議会の協議結果に反映させた。また、同検討会における検討内容は、統合新校新設準備委員会教育計画等部会に引き継がれた。

ウ 統合新校推進協議会の協議結果

統合新校推進協議会は、他の事項に先立って、統合新校の位置は第三中学校とし、通学区域は統合する2中学校の通学区域を合わせたものとするのが適当である旨の協議結果を取りまとめ、平成24年8月に教育長に報告した。その後、他の事項を含めて、当面予定していた事項についても協議をまとめ、平成24年11月に「統合新校の基本的事項に関する

協議結果報告書」により教育長に報告した。

「統合新校の基本的事項に関する協議結果報告書」概要

《協議結果》

1 統合新校の位置

2中学校の通学区域のほぼ中央に位置しており、第四中学校と比較して校舎全体が明るく、施設の状況も比較的良好であることから、現在の第三中学校を活用することが適当であるとする。

2 通学区域

これまでの目黒区の中学校の統合の取り組みの経緯、学校規模の適正化という統合本来の趣旨から、統合する2中学校の通学区域を合わせたものとするのが適当であるとする。

3 新校における学校教育の基本となる考え方

人権尊重を基盤とした、いじめのない、お互いを認め合える学校

4 新校が目指す学校像

- (1) 学ぶ意義を実感することで自己への自信を獲得することとともに、国際社会に役立つ英語によるコミュニケーション能力をはぐくむことができる学校
- (2) 豊かな人間関係を構築していく中で、生徒一人ひとりの自己の実現を支援し、社会で求められるソーシャルスキルを身に付けることができる学校
- (3) 家庭や地域とのつながり、小学校から中学校への円滑な連携を図ることで、自校や地域に対する愛着と誇りをもつことができる学校

5 学校づくりの視点

- (1) 学ぶ意義を実感することで自己への自信を獲得するとともに、国際社会に役立つ英語によるコミュニケーション能力をはぐくむことができる学校
- (2) 豊かな人間関係を構築していく中で、生徒一人ひとりの自己の実現を支援し、社会で求められるソーシャルスキルを身に付けることができる学校
- (3) 家庭や地域とのつながり、小学校から中学校への円滑な連携を図ることで、自校や地域に対する愛着と誇りをもつことができる学校

(4) 移行期間中の教育活動・交流活動

ア 教育活動

特に、「人権尊重教育の充実」「キャリア教育の推進」「英語によるコミュニケーション力の向上」については、新校における学校づくりの根幹をなすことから、重点的に取り組む必要があるとする。

イ 在校生の交流活動

統合新校にあっては、両校の人権尊重教育推進校としての研究成果を十分に踏まえ、生徒が円滑に学校生活を送れるよう、交流活動を計画していくことが適当である。

(5) 校名の選定

公募により選定していくことが望ましいとする。なお、公募の方法、対象者の範囲など、詳細については、今後設置される統合新校の開設準備組織の中で検討していくべき事項とする。

(6) 校章・校歌・校旗の検討

第三中学校、第四中学校の在校生が中心となって、2校を中心とした検討組織を設置して、合同で統合新校のシンボルを作成していくことが適当とする。

(7) 標準服の検討

選定に当たっては、2校が主体となって進めていくことが適当とするが、その際、保護者の経済的な負担を十分考慮していくことが重要である。そのため、保護者の意見を十分に聴きながら検討していくことが必要であるとする。

(8) 2校の歴史的な資料の保存

PTAなど関係者の意見も聴きながら、学校が主体となって保存方法の検討をしていくことが適当とする。

《統合に当たって配慮すべき事項》

統合移行期間中、新校開校後、今後の教育課程等の検討にあたっての配慮すべき事項を示した。

(3) 第三中学校・第四中学校の統合新校整備方針の策定

ア 協議結果への対応

教育委員会では、統合新校推進協議会から報告された協議結果について、次のとおり統合新校整備方針に反映させた。

(ア) 統合新校の位置

現在の第三中学校を活用する。なお、第三中学校の既存校舎の活用にあたり、現在の教育環境に即した機器の導入や学習環境の整備、更新が必要な施設設備の改修等を行う。

(イ) 統合新校の通学区域

統合する2中学校の通学区域を合わせたものとする。

なお、隣接中学校希望入学制度の申請が開始されることを踏まえ、統合校区内の4小学校（田道・下目黒・不動・油面）及び近隣小学校の児童、及び保護者を対象として、統合に関する進捗状況等の説明会を平成24年10月に6回行った。

イ 統合新校整備方針の策定

平成24年12月から平成25年3月にかけて、統合新校整備方針に関する区民説明会を2回、保護者説明会を7回実施し、区民意見等を踏まえ、平成25年3月に「第三中学校・第四中学校の統合新校整備方針」を策定した。リーフレット「夢と希望に満ちあふれた学校をつくります！」を作成するなどして周知した。

「第三中学校・第四中学校の統合新校整備方針」概要

1 統合新校が目指すもの

(1) 新校が目指す学校像

「人権尊重を基盤とした、いじめのない、お互いを認め合える学校」

○学ぶ意義を実感することで自己への自信を獲得することとともに、国際社会に役立つ英語によるコミュニケーション能力をはぐくむことができる学校

○豊かな人間関係を構築していく中で、生徒一人ひとりの自己の実現を支援し、社会で求められるソーシャルスキルを身に付けることができる学校

○家庭や地域とのつながり、小学校から中学校への円滑な連携を図ることで、自校や地域に対する愛着と誇りをもつことができる学校

(2) 新校における学校づくりの視点

○学ぶ意義を実感することで自己への自信を獲得するとともに、国際社会に役立つ英語によるコミュニケーション能力をはぐくむことができる学校

○豊かな人間関係を構築していく中で、生徒一人ひとりの自己の実現を支援し、社会で求められるソーシャルスキルを身に付けることができる学校

○家庭や地域とのつながり、小学校から中学校への円滑な連携を図ることで、自校や地域に対する愛着と誇りをもつことができる学校

(3) 目指す学校像を踏まえた重点的教育活動

ア 人権尊重教育の充実

イ 社会的・職業的自立に向けた意欲・態度・能力をはぐくむ教育の推進

ウ 英語によるコミュニケーション能力の向上

2 統合新校の基本的事項

(1) 設置時期 平成27年4月1日

(2) 設置場所 第三中学校の場所。校舎については、既存の校舎を改修して活用する。

(3) 通学区域 2校の通学区域を合わせた区域とする。

(4) 校名 公募を行い選定する。

(5) 校章・校歌・校旗

両校の在校生を含めた学校主体の組織を設けて取り組んでいく。

(6) 標準服など

生徒の一体感の醸成という視点から、新校においても標準服を定める。両校の在校生を含めた学校主体の組織を設けて取り組んでいく。

(7) 2校の歴史的な資料の保存

保護者やPTAなど関係者の意見も聞きながら、学校が主体となって保存方法の検討をしていく。

3 移行期間中の教育活動等

(1) 教育活動 3つの重点的教育活動の推進を掲げる。

(2) 交流活動 様々な交流活動を行う。また、各小学校との交流や小学校間の交流なども行う。

4 学校環境の改善と整備

- (1) 校舎改修等による学習・生活環境の改善
 - 統合に伴う学級数増加のための対応、教育環境改善のための改修
 - 生活環境の改善
 - 施設の維持管理のための改修、その他の改修
- (2) 現在のニーズを踏まえた教育環境の整備
 - 機器の導入（ICT環境の充実（電子黒板の導入））
 - 教室備品等の入替え
- (3) 校舎改修等の時期 平成25年度から26年度にかけて行う。
- 5 統合の推進体制と今後のスケジュール
 - (1) 統合の推進体制
 - ア 統合新校開設準備委員会
 - 統合新校の具体的な取組みを進めるため設置する。次の各部会で取りまとめていく。
 - 教育計画等部会
 - 校章・校旗、校歌部会
 - 標準服部会
 - イ 校名の選定
 - ウ 統合新校開設準備担当校長の配置
 - (2) 今後のスケジュール
- 6 統合に伴う諸課題への対応
 - (1) 統合にあたっての課題
 - (2) 課題に対する具体的な対応
 - (3) 積極的な情報発信と区立中学校の魅力の啓発

(4) 統合新校整備方針に基づく取組み

ア 統合新校の基本的な事項

(ア) 設置時期・設置場所

平成27年4月1日に、統合新校を開校する。第三中学校の場所（目黒区下目黒三丁目23番18号）に設置することとし、校舎については、既存校舎を改修して活用する。なお、わかたけ学級（肢体不自由学級）は、統合新校開設後も引き続き油面小学校で教育活動を行う。

(イ) 通学区域

通学区域については、第三中学校と第四中学校の通学区域を合わせた区域とし、統合新校の通学区域内の小学校は、田道小学校、下目黒小学校、不動小学校、油面小学校（一部）とした。

(ウ) 校名

統合新校の校名は、区民に統合新校への親しみを持っていただくという視点から、公募を行い、校名を選定し、校名選定の時期については、平成25年度の早い時期に選定を行い、25年度第4回区議会定例会までには条例改正をする方向で進めた。

そこで、区内在住、在勤、在学者を対象に、平成25年5月から6月にかけて校名を公募した。応募総数は453名の方から489件であり、応募された校名の数は200件であった。

校名選定の基準は、新校が「地域に根ざした中学校」として、校区の児童、生徒、保護者及び地域の方々に愛される学校としていけるよう、新校が目指す学校像や、地域の

特性、歴史的背景など、様々な視点から議論を深め、多くの方から支持されるような校名を選定することとした。選定は、教育委員会の会議において行った。

平成25年7月開催の定例会における一次選定により32件に絞り込み、同年8月開催の定例会における二次選定で「大鳥（鳳）中学校、目黒大鳥中学校」を含む7つの校名を候補として選定した。同年8月から9月までの3回の定例会における三次選定で、最終的に「大鳥中学校」とした。理由は、○鳥が大空に羽ばたいていくのと同様に、三中生と四中生の両方の翼で協力しながら自分達の明るい未来に向かって大きく羽ばたいていくイメージが新校としてふさわしい、○多くの区民から応募があり、アンケートでも多くの生徒から支持を受けている。○目黒区に古くからある大鳥神社にも程近い中学校である、という点である。

イ 統合新校開設準備担当校長の配置

統合新校開校1年前の平成26年4月から、統合新校開設準備担当校長を配置することとし、同校長を中心として、開校に向けた具体的な準備を進めていく。そこで、平成26年4月に牛島順子第四中学校長を大鳥中学校開設準備担当校長に任命し、開設準備委員会の委員長として開校に向けた具体的な準備を進めた。

ウ 統合新校開設準備委員会の設置

(ア) 統合新校開設準備委員会～大鳥中学校開設準備委員会

統合新校の開設準備組織として「統合新校開設準備委員会」を設置した。

当初から、統合新校開設準備担当校長を中心とした組織として設置すべきと考えていたが、同校長の配置が平成26年度の予定であったため、25年度は教育委員会の内部組織として設置の上、平成26年度は開設準備担当校長を中心とした組織「大鳥中学校開設準備委員会」に改組した。

開設準備委員会は、統合新校の教育計画に関すること、統合新校の校章・校旗、校歌及び標準服に関すること、その他統合新校の開設に関することを所掌した。

また、所掌事項に関する専門的事項の検討等をするため、「教育計画等部会」「校章・校旗、校歌部会」「標準服部会」という3つの専門部会を置いた。部会員については、各小中学校からできるだけ平成26年度も継続が可能な方の推薦を受けた。「校章・校旗、校歌部会」「標準服部会」には部会員に生徒も加え、その意見を尊重した。

統合新校開設準備委員会は平成25年6月から平成26年3月にかけて7回、大鳥中学校開設準備委員会は平成26年5月から平成27年3月にかけて8回開催した。

(イ) 教育計画等部会

教育計画等部会は学校及び教育委員会で構成し、①平成25・26年度の移行期間の教育計画の調整、実施に関すること、②平成27年度以降の統合新校の教育課程の編成に関すること、③開校に向けての準備運営に関すること、④その他、教育計画に関する実務的

なことを所掌した。平成25年7月から平成27年3月まで19回開催し、次の結果を得、教育課程に反映させた。

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人間尊重の精神を基盤とし、国際社会で大きく羽ばたく生徒を育成する。

自主 協働 創造

自主…一人ひとりが個性・能力を伸ばし、主体的に未来を切り拓いていくこと。

協働…多様性を認め合い、それぞれの強みを生かしてともに働き・支え合うこと。

創造…何事にも粘り強く挑戦し、新たな価値を創り出すこと。

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

【方針1】一人ひとりが自己の個性や能力を伸ばすために、基礎的・基本的な知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

ア 習熟度別指導及び少人数指導の推進

イ 問題解決型学習の推進

ウ 言語活動の充実

エ 英語によるコミュニケーション能力を高める教育の充実

オ 体力の向上・健康教育の充実

【方針2】ともに働き、互いに支え合い、高め合い、いじめのない、人とのつながりを大切にした教育を推進する。

カ 人権教育の推進

キ 豊かな心をはぐくむ教育の推進

ク 特別支援教育の充実

【方針3】地域・企業等と連携した教育を推進し、国際社会で自己実現できる力の育成を図る。

ケ 社会的・職業的自立に向けた資質・能力を育てる教育の充実

コ 校区内小学校と連携した、連続性のある9年間の教育の推進

サ 開かれた学校づくり

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動

ア 各教科

イ 道徳

ウ 総合的な学習の時間

エ 特別活動

(2) 特色ある教育活動

【人権教育の推進】

○全教職員による道徳の時間の実施

○いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議、人権作文・講話、関係機関見学等の充実

○特別支援学級における交流及び共同学習の充実

○スクールカウンセラーの全日配置

【国際社会で活躍できる英語力、英語によるコミュニケーション能力の育成】

○「いつでもどこでも英会話」の実施

○週5時間（標準時数+1）の英語に関する授業の実施

○英会話教室、Eキャンプの実施

○小・中連携による英語教育の充実

【社会的・職業的自立に向けた資質・能力を育成する教育の推進】

○実践的な職業体験、多様な職業人から学ぶ教室の充実

○第1学年からの進路指導の充実

○生徒会を中心とした、学校行事の運営強化

○小・中連携による生活指導

(3) 生活指導・進路指導

ア 生活指導

イ 進路指導

(ウ) 校章・校旗、校歌部会

校章・校旗、校歌は、学校の象徴として生徒の一体感を高める役割を持つものとして各校が独自に定めているものであり、新校では、生徒が自分たちで新しい学校をつくってい

くという意識を醸成することで、新校に対する愛着を高めていくという視点から、両校の在校生を含めた学校主体の組織を設けて、取り組んだ。校章・校旗、校歌部会は、①校章・校旗及び校歌に関する事、②その他、校章・校旗及び校歌の制定のために検討を要することを所掌した。平成25年10月から平成26年9月までにかけて会議を開催し検討した。

a 校章

第三・第四中学校全生徒から図案を募集し、候補作品を3点選んだ。

これらについて、第三・第四中学校全生徒、校区小学校5、6年生、児童生徒の保護者、地域にアンケートを実施した。最終案は、中央が第四中学校の「こぶし」、左右の羽が第三中学校の「ひばり」をイメージしたもので、それぞれの象徴を融合することで、両校の良き伝統を継承しながら、新たな歴史を築いていくことを意味している。



b 校歌

第三・第四中学校全生徒から校歌に入れたいフレーズを募集し、これらを参考に、歌詞素案を作成した。校歌作成補作者として第三中学校卒業生である小川智之氏に協力を打診し、作曲、歌詞の補作、編曲に協力をいただいた。小川氏には部会にも参加いただき、案を練り決定した。大鳥中学校の教育目標の「自主・協働・創造」をメインに、1番は仲間、2番は自分たちの未来をテーマにした詞となっている。

大鳥中学校校歌	
<p>1 青く澄み渡る 広い空の下 今日も絶えない笑顔がある 共に学び合い 共に助け合う かけがえのない 仲間がいる まだ見ぬ道の先に どんな未来があるの いつの日も 希望抱いて 行きたい</p>	<p>2 目黒で勤しみ 誇り高くもち いつも素直な心であれ 自らを信じ 自らを愛し 心の強さ 育てながら どんな遠い夢でも 叶う未来はあるよ いつの日か 道は拓ける</p> <p>今 明日に向かって 歩いてゆく 見上げればいつも 空がある 恐れずに 負けずに 生きてゆこう 心に翼を広げて 飛翔 大鳥のように</p>

c スクールカラー

第三・第四中学校1年生と校区4小学校5、6年生児童を対象に実施した希望調査の結果をもとに検討し、落ち着きがあり、清潔感のある紺色とした。

(エ) 標準服部会

生徒の一体感の醸成という視点から、新校においても標準服を定めていくこととした。その検討について、校章・校旗などと同様に両校の在校生を含め、学校主体の組織を設けた。なお、保護者が標準服などの買い替えが必要になった場合でも、新たな負担が無いよ

うに努めた。標準服部会は、平成25年10月から平成26年10月にかけて12回開催し、検討を行った。

a 標準服

第三・第四中学校の1年生、校区4小学校の5、6年生、保護者、地域に対し、標準服に関するアンケートを実施した。標準服の仕様について、アンケート結果を受けて男女ともに標準服はブレザーの方向で協議を進め、大鳥中学校の目指す学校像、コンセプトに沿うこととした。

業者からのデザイン画を求め、部会で第一次選定の審査を行い、7作品を選定した。最終選定のため、この7作品について業者による実物見本によるプレゼンテーション及び第三・第四中学校及び校区4小学校における展示を平成26年4月から5月にかけて行い、広く公開し、意見を募った。以上による生徒・児童・保護者、地域によるアンケートの結果を参考にして部会で協議の上、決定した。

新しい標準服は、大鳥中学校のスクールカラーの紺色を基調としたブレザーに、大空をイメージするスカイブルーと白を使用したネクタイ、リボンである。特に女子の標準服は、シルエットの美しいプリンセスラインのジャケット、スカイブルーとピンクを組み合わせたチェック柄のスカートなど、清潔感の中にも気品のある標準服になった。また、校章をモチーフにしたエンブレム、特別仕様のボタンなど、本校のためのオリジナルデザインとなっている。なお、女子の標準服は、ネクタイのほかにもリボン、スラックスも自由に選択することができる。

b 体育着

アンケート結果をもとに、業者にサンプルを依頼し決定した。新しい体育着は、最新モデルを採用した。ジャージ・ハーフパンツは、ソフトで軽量の素材なので運動時も快適に着用できる。毛細管現象を利用した構造で吸水・速乾性に優れている。Tシャツは、吸汗、透け防止、UVカット素材となっている。

c 標準服と体育着の公費負担

平成26年度において第三・四中学校に就学している1、2年生で、引き続き平成27年度も大鳥中学校に就学する生徒に係る標準服と体育着について公費負担した。

エ 移行期間中の教育活動等

(ア) 教育活動

統合移行期間中には、新校への円滑な移行に向けて、新校が目指す学校像、新校における学校づくりの視点に基づき、3つの重点的教育活動「人権尊重教育の充実」、「社会的・職業的自立に向けた意欲・態度・能力をはぐくむ教育の推進」「英語によるコミュニケーション能力の向上の推進」に取り組んだ。なお、各校がそれぞれ行っている教育活動を尊重しながら、発展的に充実していくこととした。

(イ) 交流活動

円滑な移行に向けて、両校の生徒が、統合の過程の中で豊かな人間関係を構築していくことが重要なポイントとなるので、統合移行期間中に様々な交流活動を行い、第三中・第四中の生徒の豊かな人間関係の構築に向けた取り組みを進めた。また、各小学校との交流や小学校間の交流などを通じ、期待を持って統合新校に進学できる環境づくりにも努めた。なお、交流にあたっては、生徒の負担を考慮しながら、可能な範囲での交流を行った。

年度	実施日	内 容	場 所	対 象
平成 25 年度	平成 25 年 7 月 9 日	交流会	第三中学校	三中・四中 1 年生
	平成 25 年 7 月 22～26 日、7 月 29 日～8 月 2 日	夏休み英会話教室	第四中学校	三中・四中 1 年生
	平成 25 年 12 月 17 日	交流会	第四中学校	三中・四中 1 年生
	平成 26 年 3 月 6 日	合同遠足	マザー牧場	三中・四中 1 年生
平成 26 年度	平成 26 年 6 月 15 日～18 日	自然宿泊体体験教室 (合同)	八ヶ岳林間学園	三中・四中 1 年生
	平成 26 年 7 月 1 日	校区内 4 小学校合同遠 足	相模湖プレジャー フォレスト	下目黒小・油面小・田道 小・不動小 6 年生
	平成 26 年 7 月 28 日～31 日	E キャンプ	八ヶ岳林間学園	三中・四中 1・2 年生
	平成 26 年 8 月 4 日～8 日	夏休み英会話教室	第四中学校	三中・四中 1～3 年生
	平成 27 年 1 月 27 日	合同遠足	鎌倉	三中・四中 2 年生

オ 学校環境の改善と整備

(ア) 校舎改修等による学習・生活環境の改善

統合新校は、既存校舎を改修して活用（現在の第三中学校を活用）し、改修にあたっては、三つの視点を整備の方向とした。

- ① 統合に伴う学級数の増加に対応するための改修や教育環境改善のための改修、機器等の更新、整備を進めていくこと。
 - ・普通教室の改修、黒板の改修（ホワイトボードへの改修） ・特別教室（理科室、被服室、技術室）の改修等 ・構内情報通信網の整備 ・ランチルームの改修（可動式間仕切設置：少人数指導への対応） ・学校図書館の改修 ・校庭防護ネットの張替え、散水機増設
- ② 学校における生活環境の改善のための改修を進めていくこと。
 - ・トイレ環境の改善（トイレの洋式化等） ・エアコン増設・特別支援教室への空気清浄機設置 ・飲水水道直結化
- ③ 計画的に修繕する必要がある補修工事などの改修を進めていくこと。
 - ・校舎外壁 ・校舎屋上の防水 ・校舎内（床、内壁、天井等） ・体育館・プール屋根
 - ・給食室

(イ) 現在のニーズを踏まえた教育環境の整備

新校では、学校の魅力づくりの視点から、現在の教育ニーズに即した教育環境を整備していく必要があることを踏まえ、魅力的な教育活動を展開していく上で必要な機器や機材を整備し、教育環境の充実を図った。特に、ICT環境については、電子黒板の設置などを図り、分かりやすい授業の展開に努めた。また、老朽化や消耗の激しい機材や備品等の入れ替え、特別支援教室のより良い環境づくりに努めた。

① 機器の導入・ICT環境の充実（電子黒板の導入）

② 機材の更新等 ・教室備品等の入替え

(ウ) 校舎改修等の時期

改修にあたっては、学校の教育活動に極力影響を及ぼさないように、夏休みなどの長期休業期間や週末などを中心に行った。また、他の時期に行う場合でも、教育活動に支障の出ないように配慮しながら進めた。以上を踏まえ、改修工事は平成25年度から26年度にかけて行った。

名称	期間	内容
平成25年度第Ⅰ期改修工事	平成25年7月～9月	第一校舎、第二校舎、体育館棟の内装改修、飲水水道直結化等
平成25年度第Ⅱ期改修工事	平成25年10月～12月	第一校舎、第二校舎、体育館棟の外壁改修、屋上防水改修等
平成25年度第Ⅲ期改修工事	平成26年1月～3月	体育館棟屋上の膜屋根の張替え等
平成26年度第Ⅰ期改修工事	平成26年7月～9月	第一校舎、第二校舎の内装改修、校庭の散水器増設、防護ネットの補修等
平成26年度第Ⅱ期改修工事	平成27年2月～3月	正門の門扉等取替え、正門の門扉等取替え、各門等の校名板取替え等

(エ) 生徒用ロッカーの設置

手荷物等を保管する生徒用ロッカーを各教室に設置することとした。

カ 統合に伴う諸課題への対応

(ア) 教員の加配

学校統合にあたっては、保護者からは、特に統合前後の生徒の学校生活や学習面（特に受験を迎える統合前年度の中学2年生と3年生）で動揺や不安が生じるのではないかという声が多く寄せられている。こうした側面からも、生徒の心のケアや学校運営、教育活動の充実のための体制強化が不可欠であるとともに、生徒や保護者の不安の軽減のためにも、東京都による支援が受けられることの効果は非常に大きいことから、教員の加配について東京都の「新しい学校づくり事業」に基づき要望した。

平成27年4月の統合に向けて、両校では通常の校務分掌に加えて、統合に関する校内委員会を設置して、新校開設の準備を進めていく。教育課程の連携や学校行事の合同実施などについては、統合を見据えて、両校合同の検討組織で進めていくこととなる。統合前年は、新校開設に向けて、教育課程の整合、学校運営組織の整備、生徒会やPTAの交流

活動、地域活動の合同実施、閉校式典及び開校式典の準備などの事務量がさらに増加し、教員の負担が重くなることを見込まれる。よって、統合の準備を進めながら、生徒たちの心のケアにも配慮しつつ、日常の教育活動及び学校運営に支障をきたすことのないよう、教員1名の加配を希望する。なお、加配教員の配置は、生徒数が激減している第四中学校を希望した。

(イ) スクールカウンセラーの派遣時間の拡充

スクールカウンセラーの派遣時間を、原則週2日のところを、第三・第四中学校、校区4小学校について週3日と拡充し、相談体制を強化した。

(ウ) 標準服と体育着の公費負担

平成26年度において第三・四中学校に就学している1、2年生で、引き続き平成27年度も大鳥中学校に通学する生徒に係る標準服と体育着について公費負担した。

キ 積極的な情報発信と区立中学校の魅力の啓発

統合における取り組みの過程や、具体的な教育課程等についても、積極的なPR活動や、様々な形での情報発信に努め、統合新校の魅力の啓発に努めた。平成26年5月から平成27年2月にかけて、「大鳥中学校の進捗状況説明会」、「大鳥中学校説明会」、「小学校における大鳥中学校説明会」、「大鳥中学校入学予定者・保護者説明会」を開催した。また、平成25年7月から平成26年4月にかけて「学校統合推進課だより（東部・中央地区版）」を5号、平成26年11月から平成27年3月にかけて「大鳥中学校開設準備だより」を3号発行した。

ク 2校の歴史的な資料の保存

第三中学校及び第四中学校は、大鳥中学校として新たにスタートするにあたり、節目として、今まで地域の中学校として親しまれてきた両校のこれまでを振り返りながら、感謝の意を表すとともに、両校の歴史と伝統を大鳥中学校に継承していくことを目的として、平成27年3月14日に閉校記念式典を開催した。同日に、各中学校のPTA主催で、在校生、卒業生や地域の方々などを対象としたイベントを開催した。また、両校の軌跡を記す記念誌を発行し、大鳥中学校体育館に第三中学校・第四中学校校歌板を設置した。

第三中学校及び第四中学校の歴史と伝統を形として残すため閉校記念碑を設置することとし、第三中学校の閉校記念碑を平成28年3月に大鳥中学校に設置した。なお、第四中学校閉校記念碑は、第四中学校跡地活用における区の方針として、特別養護老人ホーム等を整備することから、その進捗を見ながら設置する。

ケ 物品等の移転

大鳥中学校への移転に向け、要領を定めるなど計画的に実施した。

3 適正規模化の実現

(1) 生徒数及び学級数

大鳥中学校の開校前年度（平成26年度）の生徒数及び学級数は、第三中学校が学級数6学級、生徒数199人、第四中学校が学級数7学級、生徒数189人であったが、開校初年度（平成27年度）は、学級数11学級、生徒数362人、本年度（平成28年度）は学級数11学級、生徒数381人と開校後は適正規模を満たしている（下表参照）。

○生徒数及び学級数

（各年度5月1日現在）

年度	学校名	生徒数				通常の学級数			
		1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
26	第三中	74	64	61	199	2	2	2	6
	第四中	54	43	92	189	2	2	3	7
27	大鳥中	119	132	111	362	4	4	3	11
28		131	119	131	381	4	3	4	11

(2) 教職員数

平成26年度の教職員数は、第三中学校が24人、第四中学校が24人であったが、平成27年度及び28年度は31人となった。特に国語・社会・数学・理科・英語の5教科は複数の正規教員を配置することができた（下表参照）。

なお、旧第三・第四中学校から引き続き大鳥中学校に就任している教職員は、平成27年度は、旧第三中学校教職員12人（副校長、主幹教諭2人、主任教諭3人、主任養護教諭1人、教諭2人、事務1人、栄養士1人、非常勤教員1人）、旧四中学校教職員9人（校長、主幹教諭1人、主任教諭2人、教諭4人、事務1人）、平成28年度は、旧三中学校教職員12人（内訳平成27年度と同じ）、旧四中学校教職員6人（校長、主任教諭1人、教諭3人、事務1人）である。

○教職員数

（各年度5月1日現在）

年度	学校名	校長	副校長	国語	社会	数学	理科	外国語	音楽	美術	保健体育	技術	家庭	養護	特別支援学級	栄養士	事務	非常勤教員	計
26	第三中	1	1	2	2	2	1	2	1	0	2	1	0	1	3	1	2	2	24
	第四中	1	1	2	2	3	2	3	1	0	2	0	0	1	2	0	2	2	24
27	大鳥中	1	1	3	3	3	2	3	1	0	3	1	1	1	4	1	2	1	31
28		1	1	3	2	3	2	3	1	0	3	1	1	1	5	1	2	1	31

なお、東京都の「新しい学校づくり事業」に基づき教員の加配を要望した。

○平成27年度

統合初年度は、生徒にとっても、教員にとっても大きな環境の変化を伴うこととなる。その中で、新校の特色のある教育活動を展開し、根付かせていくことが重要であり、統合準備に引き続き教員への負担が軽減されることは見込めない。また、人事異動も重なることから、新校のスタート時の学校運営体制の強化が不可欠である。さらに、両校には異なる種別の特別支援学級が設置されており、この機能を新校が引き継ぐことも学校運営面での負担が避けられない。よって、生徒対応、保護者対応、地域対応など学校運営全般を通して、教員の負担を軽減し、教育活動及

び学校運営を円滑に進めるために、教員2名の加配を希望した

○平成28年度

統合2年目には、新校にとっても特色のある教育活動をさらに推進する上で重要な年度に位置付けられる。地域と連携した活動についても、初年度以上の充実が期待されることから、より一層地域とともに子どもを育てる教育を推進していかなければならない。よって、統合初年度と同様に教員の負担を軽減し、新校の運営体制の確立や生徒へのきめ細やかな対応など、新校の教育目標の実現に向けた取り組みを進めるために、引き続き教員1名の加配を希望した。

また、スクールカウンセラーの派遣について、原則週2日のところを、平成27年度週4日、28年度週3日と派遣時間を拡充し、開校時における相談体制を強化した。

(3) 部活動数

平成26年度の部活動は、第三中学校が10部、第四中学校が16部であったが、平成27年度は20部、平成28年度は19部となった（下表参照）。

年度	学校名	バスケットボール部	サッカー部	女子バレーボール部	卓球部	バドミントン部	硬式テニス部	軟式野球部	水泳部	陸上部	ダンス部	演劇部	吹奏楽部	家庭科部	模型部	合唱部	コンピューター部	英語部	茶道部	美術部	5組クラブ	計	
26	第三中	○	○	○	○			○				○	○		○					○	○	10	
	第四中	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○				16
27	大鳥中	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	20
28		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	19

第3 大鳥中学校の統合による成果・課題の検証結果

1 検証の概要

(1) 検証の目的

本年度（平成28年度）は、大鳥中学校の統合の過程を経験した生徒が最終学年である3年生となっている。区最初の統合校である目黒中央中学校については開校5年目の平成22年度に統合評価を行ったが、評価委員会において複数の委員から「統合の過程の最中にいた子どもたちの意見を聞きたかった、聞くべきであった」という意見があった。このような発言を受け、本年度を検証を行う機会と捉え、生徒たちの意見を聞くことにより統合における成果や課題をまとめ、大鳥中学校の運営及び南部・西部地区の区立中学校の統合の取り組みに活かすため検証を行った。

(2) 検証項目

ア 統合による生徒の変化等

(ア) 統合後の学校生活における生徒の変化や様子

(イ) その他生徒の変化や様子

イ 統合による教育効果等

(ア) 学校経営面（学習指導、学級経営、特別活動、学年経営等）の効果と今後の統合における課題

(イ) 学校生活面（集団活動、生活指導等）の効果と今後の統合における課題

(ウ) 統合によって実施した特徴的な教育活動等

(エ) 保護者や地域の反応等

(3) 検証手法

ア アンケート

(ア) 調査項目

・全体 ・学校生活 ・標準服、体育着 ・施設環境 ・通学区域 ・学習指導

・学年経営、学級経営等 ・特色ある教育活動 ・特別活動 ・教職員の負担 ・大鳥中学校と保護者、地域との関係 ・統合の過程

(イ) 調査の設計

a 調査対象 大鳥中学校の在校生、卒業生（開校の平成27年度卒業）、保護者、教職員、地域関係者

b 対象者数 1141人

c 調査方法

・大鳥中学校を通じた配布・回収 大鳥中学校の在校生、保護者、教職員

・郵送による配布・回収 大鳥中学校の卒業生、保護者、地域関係者

d 調査期間 平成28年11月2日～16日

(ウ) 回収結果

a 配布数 1125票 回収率 73.4%

b 有効回答数 826票 有効回収率 73.4%

c 対象別回収結果

対象	対象者数(A)	配布数(B)	回収数(C)	回収率(C/B)	
大鳥中学校卒業生	116	116	30	25.9%	
大鳥中学校 校在校生	中3	136	130	100%	
	中2	125	119	100%	
	中1	137	133	100%	
保護者	卒業生	116	116	37	31.9%
	中3	136	136	104	76.5%
	中2	125	125	90	72.0%
	中1	136	136	125	91.9%
教職員	31	31	31	100%	
地域関係者	83	83	27	32.5%	
計	1141	1125	826	73.4%	

イ 大鳥中学校長ヒアリング

(ア) 目的 アンケートの参考とするため実施した。

(イ) 実施日 平成28年11月24日

(ウ) 場所 総合庁舎52会議室

(エ) 対象者 大鳥中学校長

(オ) 実施者 学校運営課長、教育指導課長、学校統合推進課長

(4) 検証組織

南部・西部地区統合の取組みに活かすために行うことから、既存の庁内検討組織「南部・西部地区の区立中学校の適正配置に向けた検討会」において検証した。目黒中央中学校については区初の統合校であり、統合の進め方及び学校づくりの成果について検証し課題を明らかにする必要があることから、外部委員による評価委員会を設け統合評価を行ったが、大鳥中学校については、それらの評価結果を踏まえ進めてきたことから、成果の確認に主眼を置くこととし、庁内組織により実施した。

○検討状況

開催日	会場	内容
平成28年6月24日	教育委員会室	目黒区立大鳥中学校の統合による成果・課題の検証の進め方について(案)
平成28年8月22日	教育委員会室	目黒区立大鳥中学校の統合による成果・課題の検証のスケジュール等について(案)
平成28年10月27日	総合庁舎第一会議室	目黒区立大鳥中学校の統合による成果・課題の検証のスケジュール、アンケート等について(案)
平成29年1月16日	教育委員会室	目黒区立大鳥中学校の統合による成果・課題の検証について

○南部・西部地区の区立中学校の適正配置に向けた検討会構成員

職務名	氏名	備考
教育長	尾崎 富雄	会長
教育次長	関根 義孝	副会長
教育政策課長	山野 井司	
学校統合推進課長	増田 武	
学校運営課長	佐藤 欣哉	
学校施設計画課長	照井 美奈子	
教育指導課長	田中 浩	
教育指導課統括指導主事	和田 孝	
教育支援課長	酒井 宏	
教育支援課統括指導主事	古舘 秀樹	
第七中学校長	永久保 佳孝	
第八中学校長	飯野 博史	
第九中学校長	田原 弘一	
第十一中学校長	金子 弘樹	
向原小学校長	渡部 浩文	小学校長会第4ブロック代表
東根小学校長	鈴木 稔	小学校長会第5ブロック代表

2 アンケート結果の概要

肯定的評価の割合は、次の表のとおりである。

設 問		大鳥中学校在校生及び卒業生				大鳥中学校在校生及び卒業生の保護者				教職員	地域関係者	全体	
		卒業生	中3	中2	中1	卒業生の保護者	中3の保護者	中2の保護者	中1の保護者				
学校統合により大鳥中学校が開校して全体的にどう思いますか		86.7%	75.4%	83.2%	69.9%	78.4%	84.6%	78.9%	70.4%	67.7%	85.2%	76.8%	
学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか	学校規模	生徒数が増えてよかった	76.7%	76.9%	79.8%	64.7%	81.1%	85.6%	72.2%	73.6%	67.7%	88.9%	75.7%
		学級数が増えてよかった	73.3%	68.5%	74.8%	63.2%	83.8%	83.7%	74.4%	70.4%	64.5%	81.5%	72.5%
		教職員数が増えてよかった	63.3%	57.7%	63.0%	64.7%	75.7%	76.9%	73.3%	72.8%	74.2%	81.5%	68.4%
		部活動数が増えてよかった	66.7%	63.8%	71.4%	75.2%	54.1%	67.3%	68.9%	66.4%	35.5%	74.1%	67.1%
	学校生活	勉強する意欲が高まった	60.0%	58.5%	—	—	48.6%	43.3%	—	—	—	—	52.2%
		意見や発表をしやすくなった	50.0%	41.5%	—	—	24.3%	24.0%	—	—	—	—	34.2%
		友人関係が広がった	90.0%	85.4%	—	—	81.1%	76.9%	—	—	—	—	82.4%
		競争意識が高まった	53.3%	53.8%	—	—	45.9%	44.2%	—	—	—	—	49.5%
		いじめやけんかなどのトラブルに学校が迅速に対応してくれる	43.3%	46.9%	—	—	24.3%	32.7%	—	—	—	—	38.9%
	標準服等	新しい標準服が気に入った	76.7%	79.2%	—	—	—	—	—	—	—	—	78.8%
		新しい体育着が気に入った	63.3%	72.3%	—	—	—	—	—	—	—	—	70.6%
	施設環境	学校施設が改修され、学校生活が過ごしやすくなった	66.7%	63.8%	66.4%	72.2%	59.5%	64.4%	67.8%	47.2%	48.4%	—	62.8%
		生徒用ロッカーが用意され、学校生活に役立った	83.3%	71.5%	69.7%	76.7%	67.6%	68.3%	71.1%	57.6%	32.3%	—	68.2%
	通学区域	通学距離が長くなった	23.3%	23.8%	—	—	35.1%	24.0%	—	—	—	—	25.2%
		通学距離が長くなったが、特に気にならない	71.4%	40.6%	—	—	61.5%	60.0%	—	—	—	—	53.2%
	学習指導	学習指導がわかりやすくなった	50.0%	53.1%	—	—	—	—	—	—	—	—	52.5%
		学習指導が充実するようになった	—	—	—	—	—	—	—	—	48.4%	—	48.4%
	学年経営、学級経営等	教職員数が増えたことにより、学年経営、学級経営が充実するようになった	—	—	—	—	—	—	—	—	61.3%	—	61.3%
		教職員数が増えたことにより、生活指導が充実するようになった	—	—	—	—	—	—	—	—	58.1%	—	58.1%
	特色ある教育活動	「人権教育の推進」に魅力を感じている	46.7%	47.7%	65.5%	60.9%	45.9%	44.2%	66.7%	60.0%	54.8%	70.4%	56.8%
「英語によるコミュニケーション能力の育成」に魅力を感じている		53.3%	55.4%	72.3%	67.7%	62.2%	60.6%	81.1%	83.2%	61.3%	77.8%	68.6%	
「社会的・職業的自立に向けた資質・能力の育成」に魅力を感じている		56.7%	60.8%	68.9%	69.2%	59.5%	63.5%	80.0%	66.4%	58.1%	74.1%	66.7%	
特別活動	校外学習、運動会、文化祭などが活発になった	83.3%	73.8%	—	—	78.4%	66.3%	—	—	74.2%	74.1%	73.0%	
	生徒会活動が活発になった	70.0%	63.8%	—	—	54.1%	53.8%	—	—	61.3%	59.3%	59.9%	
	部活動が活発になった	70.0%	63.1%	—	—	51.4%	53.8%	—	—	67.7%	63.0%	67.4%	
教職員の負担	校務分掌上の負担が軽くなった	—	—	—	—	—	—	—	—	22.6%	—	22.6%	
	学校行事の運営などの負担が軽くなった	—	—	—	—	—	—	—	—	22.6%	—	22.6%	
大鳥中学校と保護者、地域との関係	学校との関係が緊密になった	—	—	—	—	37.8%	33.7%	—	—	—	66.7%	39.9%	
	保護者との関係が緊密になった	—	—	—	—	—	—	—	—	25.8%	—	25.8%	
	地域との関係が緊密になった	—	—	—	—	—	—	—	—	38.7%	—	38.7%	
統合の過程	統合に関する情報が積極的に伝えられた	—	—	—	—	70.3%	68.3%	70.0%	66.4%	54.8%	77.8%	67.9%	
	交流活動として、旧第三中学校と旧第四中学校で合同遠足等が行われ交流が深まった	76.7%	63.1%	—	—	78.4%	72.1%	—	—	48.4%	—	67.5%	
	交流活動として、下目黒小、油面小、田道小、不動小の4校で合同遠足が行われ交流が深まった	—	—	56.3%	—	—	—	60.0%	—	—	—	57.9%	

3 【検証項目】全体及び学校規模

(1) 全体

設問 学校統合により大鳥中学校が開校して全体的にどう思いますか。

⇒肯定的評価の割合が全体の約8割を、中間的評価が約1割を占めている。

(2) 学校規模

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア 生徒数が増えてよかった

⇒肯定的評価の割合が全体の約8割を、中間的評価が約1割を占めている。

イ 学級数が増えてよかった

⇒肯定的評価の割合が全体の約7割を、中間的評価が約2割を占めている。

ウ 教職員数が増えてよかった

⇒肯定的評価の割合が全体の約7割を、中間的評価が約2割を占めている。

エ 部活動数が増えてよかった

⇒肯定的評価の割合が全体の約7割を、中間的評価が約2割を占めている。

検証結果

この設問は、統合により適正規模化が実現したことに伴う全体的な変化の実感と、具体的な変化の実感を調査するものである。

その結果によると、いずれも高い肯定的評価を得ている。

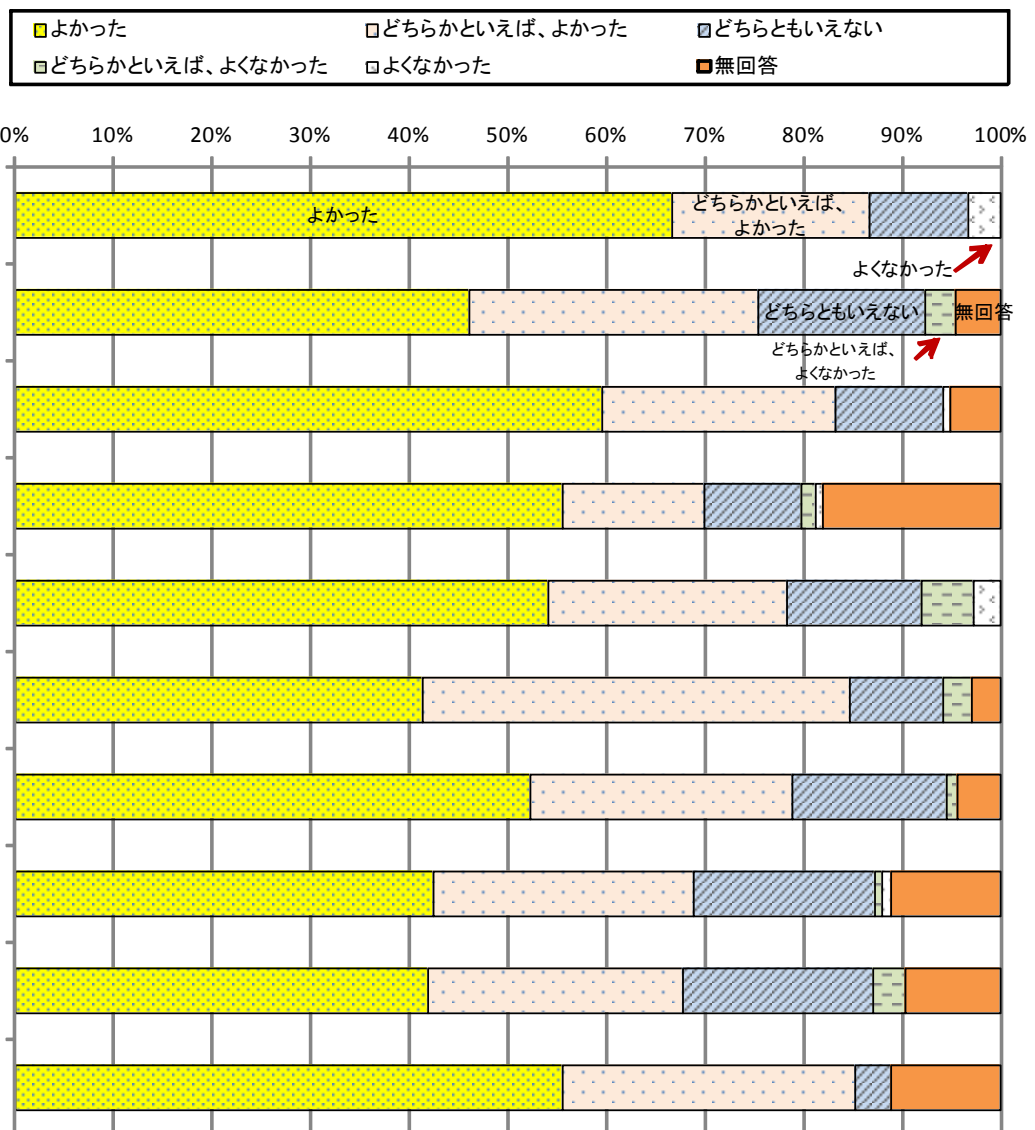
これは、学校の適正規模化が図られたことにより、区立中学校の小規模化の課題である活力ある学習活動や部活動の展開の制約、学習集団の固定化、集団活動を通じた人間関係の広がりの不十分など、教育活動におけるさまざまな課題の解消につながっていると捉えられる。また、大人への過渡期にある中学生にあっては、他の生徒や教員との豊かで多様な人間関係の中で、自分の考えを見直したり深めたりしながら、他人を思いやる心や自己の考えを実現できる能力をはぐくみ、「生きる力」を身に付けていくことが極めて大切であり、統合により充実した教育環境が整備されものと言える。

設問2 学校統合により大鳥中学校が開校して全体的にどう思いますか。

【対象:全員】

結果 肯定的評価(「よかった」「どちらかといえば、よかった」)の割合が全体の約8割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約1割を占めている。

	よかった	どちらかといえば、よかった	どちらともいえない	どちらかといえば、よくなかった	よくなかった	無回答	計
大鳥中卒業生	20	6	3	0	1	0	30
中3	60	38	22	4	0	6	130
中2	71	28	13	0	1	6	119
中1	74	19	13	2	1	24	133
卒業生の保護者	20	9	5	2	1	0	37
中3の保護者	43	45	10	3	0	3	104
中2の保護者	47	24	14	1	0	4	90
中1の保護者	53	33	23	1	1	14	125
教職員	13	8	6	1	0	3	31
地域関係者	15	8	1	0	0	3	27
計	416	218	110	14	5	63	826
	50.4%	26.4%	13.3%	1.7%	0.6%	7.6%	100%



設問3 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

1 学校規模 ※全員

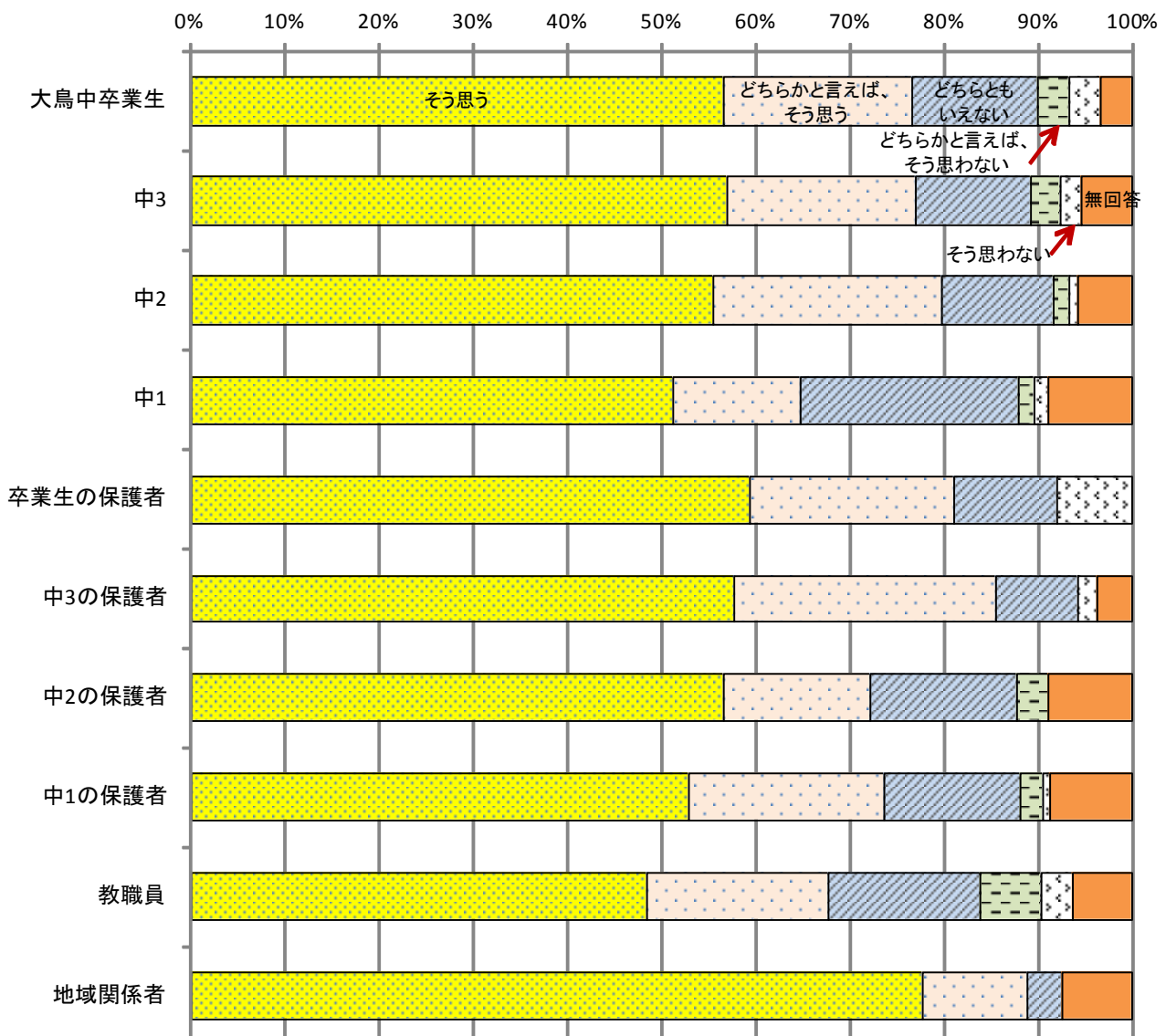
(1) 生徒数が増えてよかった。

【対象: 全員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約8割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	17	6	4	1	1	1	30
中3	74	26	16	4	3	7	130
中2	66	29	14	2	1	7	119
中1	68	18	31	2	2	12	133
卒業生の保護者	22	8	4	0	3	0	37
中3の保護者	60	29	9	0	2	4	104
中2の保護者	51	14	14	3	0	8	90
中1の保護者	66	26	18	3	1	11	125
教職員	15	6	5	2	1	2	31
地域関係者	21	3	1	0	0	2	27
計	460	165	116	17	14	54	826
	55.7%	20.0%	14.0%	2.1%	1.7%	6.5%	100%

そう思う どちらかと言えば、そう思う どちらともいえない
 どちらかと言えば、そう思わない そう思わない 無回答

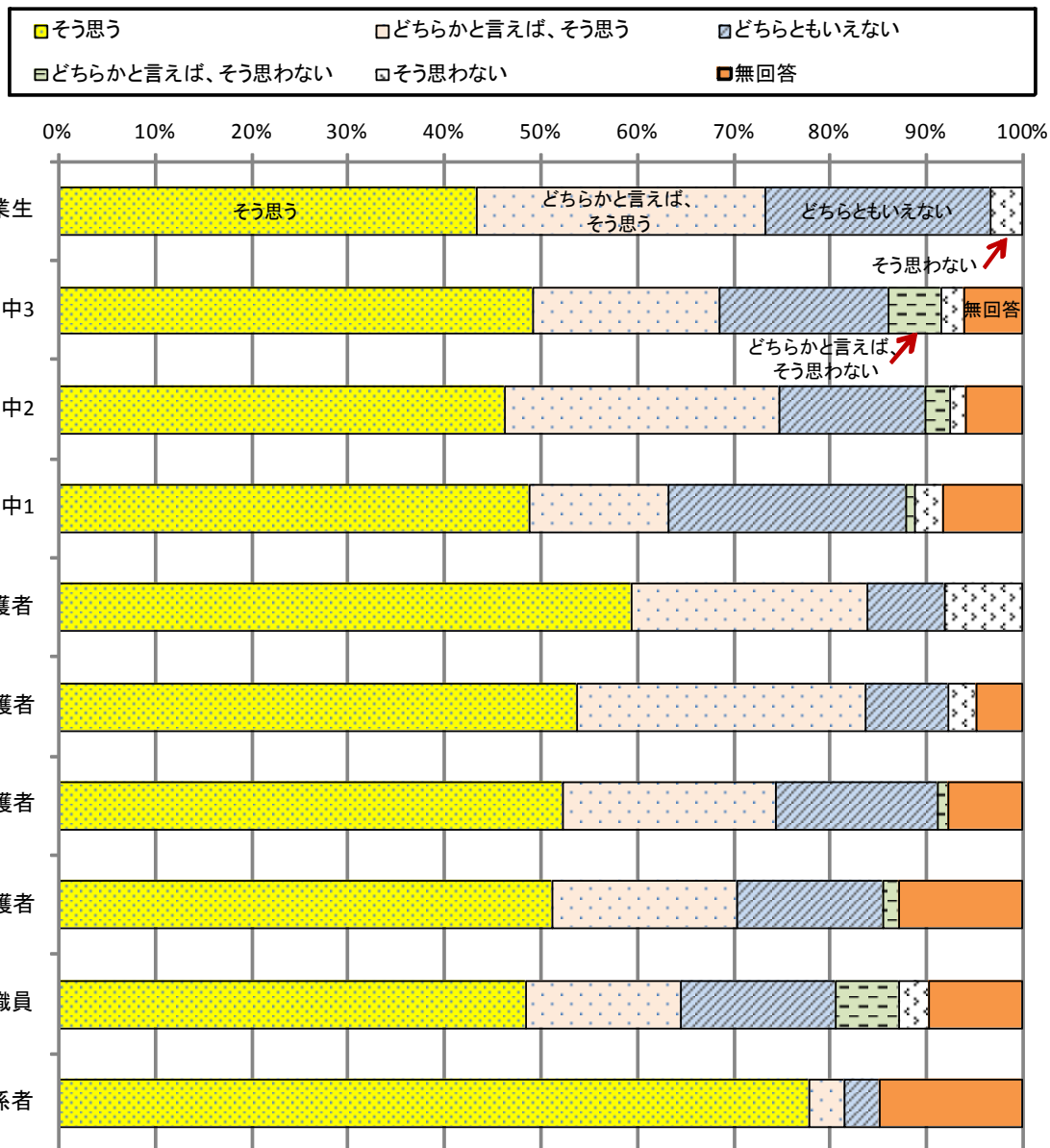


(2) 学級数が増えてよかった。

【対象:全員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約7割を、中間的評価(「どちらともいえない」)の割合が、全体の約2割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	13	9	7	0	1	0	30
中3	64	25	23	7	3	8	130
中2	55	34	18	3	2	7	119
中1	65	19	33	1	4	11	133
卒業生の保護者	22	9	3	0	3	0	37
中3の保護者	56	31	9	0	3	5	104
中2の保護者	47	20	15	1	0	7	90
中1の保護者	64	24	19	2	0	16	125
教職員	15	5	5	2	1	3	31
地域関係者	21	1	1	0	0	4	27
計	422	177	133	16	17	61	826
	51.1%	21.4%	16.1%	1.9%	2.1%	7.4%	100%

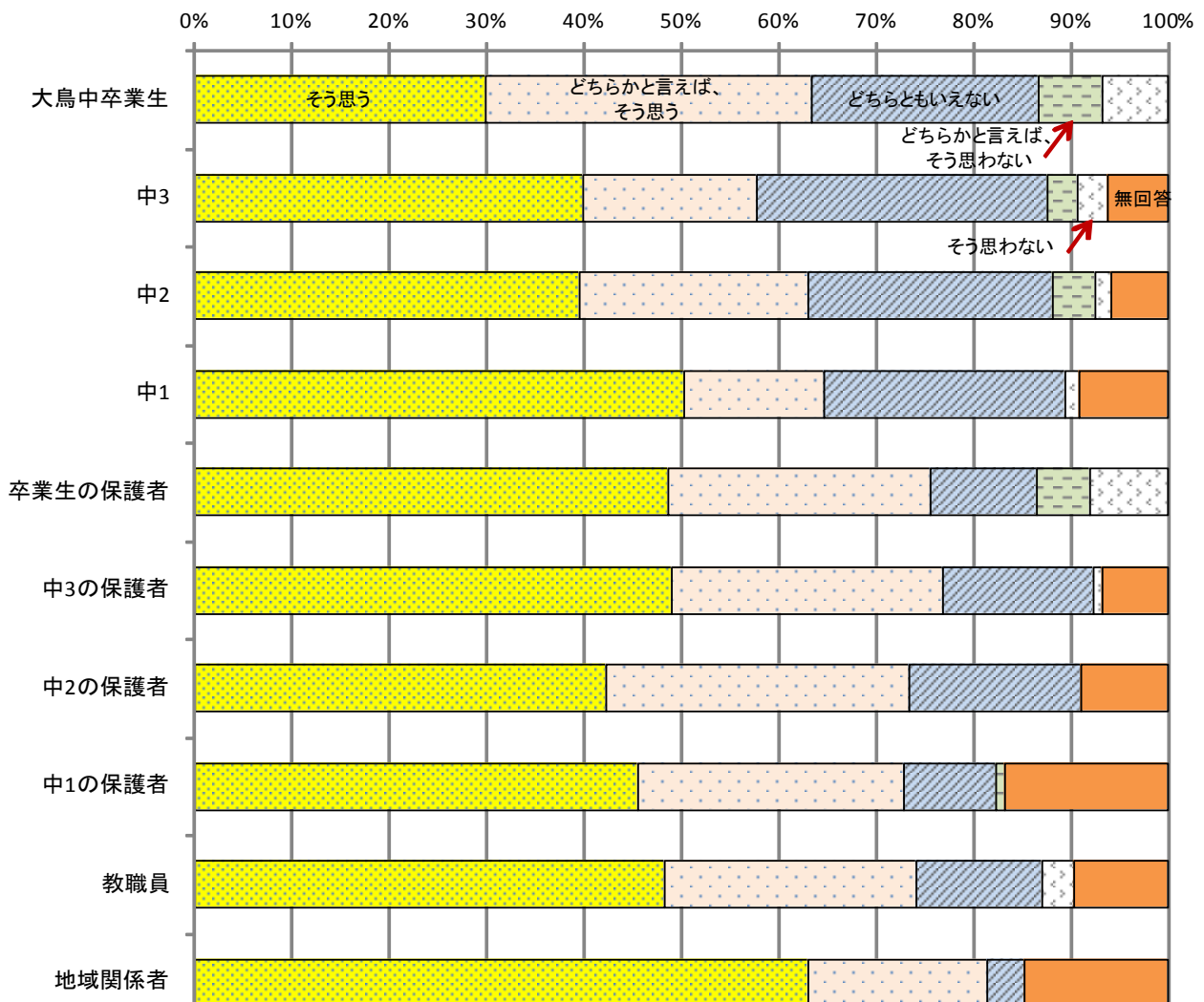
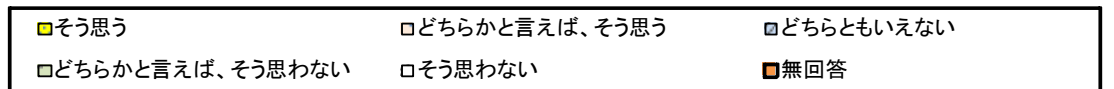


(3) 教職員数が増えてよかった。

【対象: 全員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約7割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が2割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	9	10	7	2	2	0	30
中3	52	23	39	4	4	8	130
中2	47	28	30	5	2	7	119
中1	67	19	33	0	2	12	133
卒業生の保護者	18	10	4	2	3	0	37
中3の保護者	51	29	16	0	1	7	104
中2の保護者	38	28	16	0	0	8	90
中1の保護者	57	34	12	1	0	21	125
教職員	15	8	4	0	1	3	31
地域関係者	17	5	1	0	0	4	27
計	371	194	162	14	15	70	826
	44.9%	23.5%	19.6%	1.7%	1.8%	8.5%	100%

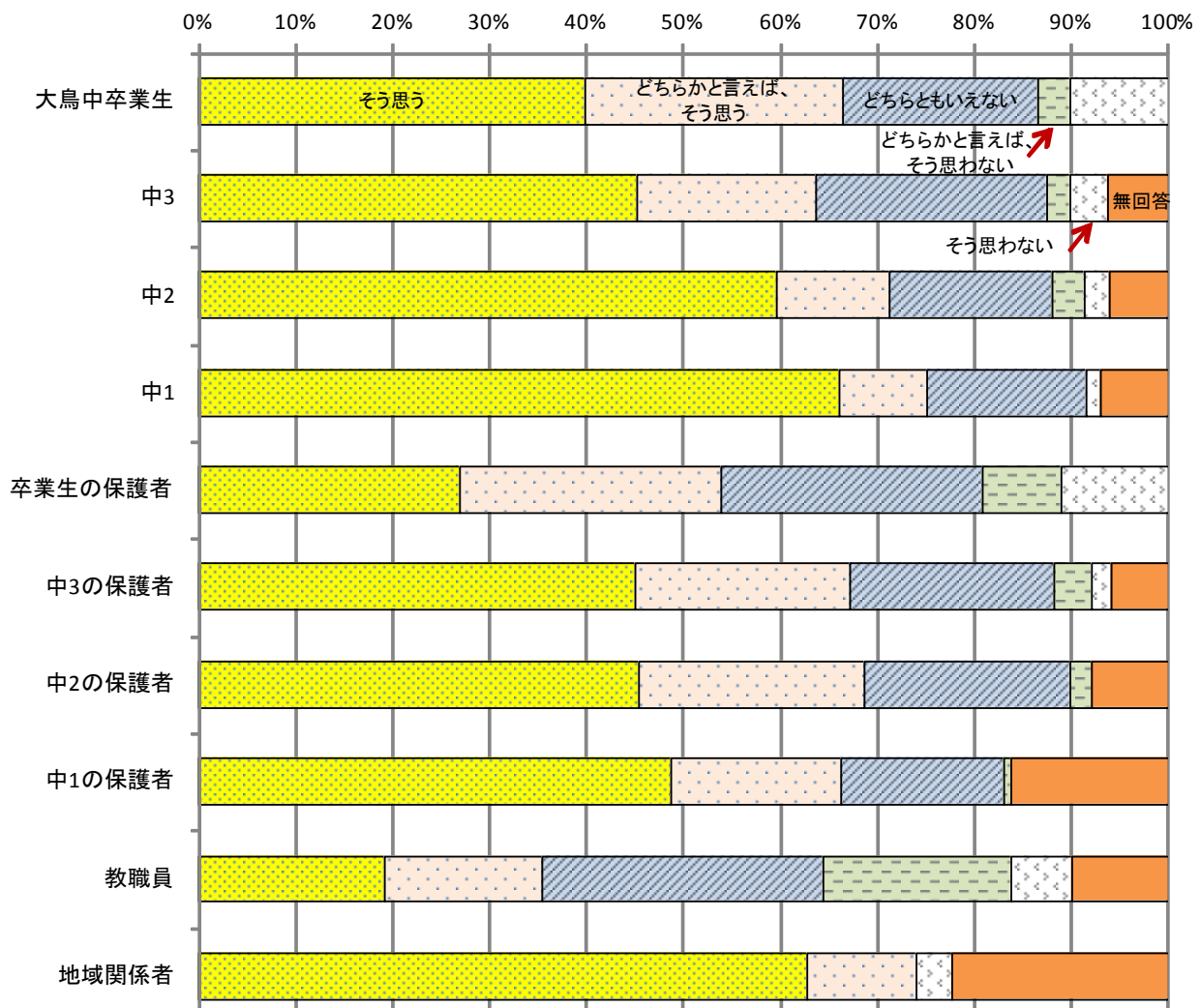
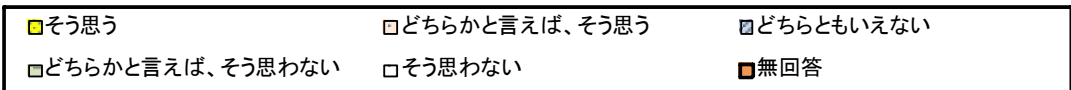


(4) 部活動数が増えてよかった。

【対象:全員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約7割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	12	8	6	1	3	0	30
中3	59	24	31	3	5	8	130
中2	71	14	20	4	3	7	119
中1	88	12	22	0	2	9	133
卒業生の保護者	10	10	10	3	4	0	37
中3の保護者	47	23	22	4	2	6	104
中2の保護者	41	21	19	2	0	7	90
中1の保護者	61	22	21	1	0	20	125
教職員	6	5	9	6	2	3	31
地域関係者	17	3	0	0	1	6	27
計	412	142	160	24	22	66	826
	49.9%	17.2%	19.4%	2.9%	2.7%	8.0%	100%



自由意見（要旨）

○大鳥中学校は、学校統合がうまくいってよかったと思う。(大鳥中卒業生保護者)

○中三での統合でしたがトラブルなく、成功だと思います。(大鳥中卒業生保護者)

○心配していたより子供達が安心して通学できていたと思います。トラブルも少なく、互いに協力して生活できていたと思います。(大鳥中卒業生保護者)

○今回の2校は、もともと小学校以前(就学前)の年令で交流のある地域(幼稚園、保育園、児童館の幼児クラブなど)だった。また、習い事や塾などでの交流もあり、生活環境が近いことから子ども同士、親同士が顔見知りという関係が多く、比較的スムーズに統合できたのではと思う。他の地域で、こんなにうまく進めていけるかはわからないが、当事者である子ども達の意見をしっかり聞くことが成否を左右するのではないか。(大鳥中卒業生保護者)

○新学期～夏休み前までは、先生方も大変な様子でなかなか相談等できなかったが、夏休み以降は落ちついたようです。(思っていたより早く、学校として落ちついた感じがあります。)(大鳥中卒業生保護者)

○四中卒の息子は、大鳥であろうと、四中が無くなろうと、母校は四中で帰る場所は大鳥中だと言います。今後も統合は続くと思いますが、親が冷静に子供の力を信じる事、何事もプラスに考える思考を備えた子供に育てる事が大切です。(大鳥中卒業生保護者)

○旧3中、4中の家庭の考え方が違う為にとまどう事もありました。(大鳥中卒業生保護者)

○四中の卒業生として運動会や部活動へ顔を出す事がしにくくなったという子どもの意見がありました。元三中生は母校として変わらないと感じるかも知れませんが元四中生にはかわいそうに思います。経済的には仕方ない事だとは思いますが、やはりどちらかの場所、校舎を使用するとなると卒業生にとっては不公平に感じてしまう事が多々あるという事も知っておいていただきたいと思います。(大鳥中卒業生保護者)

○大鳥中の1年目が大成功に終わったのは、大鳥中卒業1期生が統合とかに関係なく、良く団結しがんばれる子供達だったからなのかなと感じています。(大鳥中卒業生保護者)

○部活の数が増えて、部活動が活発になった事がとても良かったです。(大鳥中卒業生保護者)

○以前は知らないのですが、毎日楽しそうに通っており、感謝しています。また、目黒区の中でも連スポなどでご活躍している大鳥中を見て、いつもうれしく思っています。(在校生保護者)

○活気があり、よい学校だと思います。(在校生保護者)

○いじめがあった時に、クラス数が多いと良いと思いました(別れられる確率が高くなるから)。(在校生保護者)

○大変よい側面ばかりであると思います。余り巨大だと非効率や困ったことがあります。私の小学校は、2つ下の学年は13組まであり、学校は分割されました。小さすぎると先生方の負担が増えますし、部活など多様できません。4クラスずつあればいいところではないでしょうか。(在校生保護者)

○たくさんの方の尽力で、すばらしい学校(教職員の皆さまも)環境が作られており感謝しています。Pの方々もありがとうございました。(在校生保護者)

○統合する前に色々先輩達が作り上げてくれた「大鳥中学校」なのを知っているので、子どもは大切に思っていると思います。これから入学して来られるお子様にもしっかり伝えてくださると嬉しいです。(在校生保護者)

○今の鳥中では活気があり、とても良い学校だと思います。(在校生保護者)

○統合によって色々な見直しが行われて又意見も多く出たので改善されたと思います。良い所は残し、現代の教育に合う様に努力されていると感じます。生徒も明るく元気で学んでいて良いと思います。(在校生保護者)

○統合前の少人数にも全員の個々に触れることができるなどたくさんのメリットもあるので、統合後はデメリットを重点視していくことも忘れないでと思います(新教育だけでなく)。(在校生保護者)

○大鳥中学校の統合は結果的に成功したと思います。卒業生は、統合を覚悟して入学したこともあり、考え方がとてもしっかりしていたように思います。(在校生保護者)

○統合は良かったと思います。上の子は四中卒ですが、下の子の鳥中と比べてもここがよくないというのはほとんど感じられません。三中、四中をうまく交わらせて行事等も考えられているし、それぞれの良さがあると思います。(在校生保護者)

○統合に関する不安はありましたが、先生方のおかげもあり、思ったよりスムーズにできたと思っています。どうしても、もともと三中とも四中という考え方は、今の3年生にはあるようですが、今後は大鳥中に入学した生徒での運営になるのでこのまま落ち着いてくれると良いと思います。(在校生保護者)

○学校統合については、生徒数の関係から避けられないことであり、問題になることはないと思料する。(在校生保護者)

○「統合により新校誕生」と銘うっていますが、場所が旧三中なので、旧四中の卒業生が寂しい思いをしていると想像します。何らかの工夫により、“大鳥中の準卒業生”として位置付けられないものでしょうか。(在校生保護者)

- 統合する必要があって、教職員、保護者、地域の方々が一生懸命関わった結果、大鳥中学校はとて魅力のある学校になっていると思います。(在校生保護者)
- 四中時代は人数が少なく心配だったが結果が固く、結果、充実した1年だった。大鳥中にもすんなりなじみ、統合は不安だったが意識のたかい先生たちだったので問題なくとけこめた。(在校生保護者)
- 今回の統合は近い所での統合であったので、コミュニケーションが取り易かったと思う。保護者同士も知り合いなども居た為色々な意味で上手いと思った。保護者、地域の理解度はやはり重要視した方が良かったと感じた。(在校生保護者)
- 他校からの転入の為比較できない部分もありますが、1年数ヶ月子供がお世話になる中で、活気が有り、良い学校だと感じる事が多くありました。(在校生保護者)
- 三中だった頃の親密な感じが現在感じられない。(在校生保護者)
- 統合して四中のよさが失われた気がする。(在校生保護者)
- 全体的にマイナスイメージで回答しました。これは、大鳥中が悪いというイメージではなく、元の四中の良さは、あの地域、あの人材、歴史があったからこそ大変良い教育が成立していたのであり、「中学校の規模を適正に」という目的によって失ってしまったのが大きいという悔恨からくるものです。やはり伝統は必要で、地域との密着度により保護者の係わり方がこんなにも違うのかと驚くことが多いです。部活動や勉強に対しても、大きすぎると隠れていてもいいと思うようなところがあり、前よりも積極性が欠けてきたと感じます。今現在、他地域での統合がまとまらないことを見ても、何故統合させられたのかと疑問に感じます。(在校生保護者)
- 元々四中では3クラス体制であったため、統合による恩恵は正直感じづらい部分があります。(教職員)
- 統合2年ですので今後がまた種々と大変だと思いますが、良い中学になる事を望みます。よろしくご指導ください。(地域関係者)
- 牛島校長先生は、何か行事のあいさつでよく、三中の歴史も四中の歴史も大切とお話されるので、大鳥中の子どもたちは、いつまでも三中と四中のことを忘れないのかなと思います。(地域関係者)
- 自然な形で交流し、統合していく上で熱心さが感じられ、ご尽力ありがとうございます。生徒達の分裂もなく、いじめもなく、仲間はずれもなく、みんな思いやりの心をもちながら、相手を認めていくような感じを行事の時に感じました。職員の方々はいつも熱心に指導されている姿が、生徒達もあまりモノモノした姿でなく、ホワンホワンした感じで幸せな空気の中にいられるのも環境を考えていただいているおかげだと思っています。あまり統合するのどうかと思っていますが、生徒数が増えたことで活気があるのも大切だし、いろんな人とふれあい、悩むのも社会性を培う大切な要因となるので、年度(3年間のうち2年生)途中でしたが自然と交わっているのも違和感なく学校生活を楽しんでいるようで安心しています。(在校生保護者)

大鳥中学校長ヒアリング

- 統合して学校の魅力が増し、生徒たちも仲良く溶け合いよかった。
- 統合後、落ち着くまで3年間はかかると覚悟していたが、最初の1~2か月、運動会までには落ち着いた。運動会での3年生の団結のようすを見て、統合はうまくいっていると実感した。遠慮せず両方の良さを出してこうとした。生徒間の壁は、いつの間にかなくなり、どちらが元は三生生・四中生か分からなくなった。
- 大人たちが仲良くないことにはと思い、公正公平に分け隔てなく接し、前向きな意見を出し合うようにした。
- 平成27年6~7月に1期生全員と面接したが、その際に統合してよかったとの声がほとんど全員から聞かれた。

4 【検証項目】統合による生徒の変化等

(1) 学校生活

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア 勉強する意欲が高まった

⇒肯定的評価の割合が全体の約5割を、中間的評価が約3割を、否定的評価が約1割を占めている。

イ 意見や発表をしやすくなった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約3割を、中間的評価が約5割を、否定的評価が約1割を、無回答が約1割を占めている。

ウ 友人関係が広がった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約8割を占めている。

エ 競争意識が高まった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約5割を、中間的評価が約3割を、否定的評価が約1割を、無回答が約1割を占めている。

オ いじめやけんかなどのトラブルに学校が迅速に対応してくれる。

⇒肯定的評価の割合が全体の約4割を、中間的評価が約5割を、否定的評価が約1割を、無回答が約1割を占めている。

検証結果

この設問は、学校の適正規模化が実現したことに伴う学校生活面での変化の実感を調査するものである。

勉強する意欲が高まったことについては、肯定的評価が全体の約5割であり、統合によりきっかけになったと考えられる。意見や発表をしやすくなったことについては、肯定的評価が全体の約3割、中間的評価が約5割であり、変化を実感するほどではない。友人関係が広がったことについては、特に強く実感されており、自由意見でもこのことについてよかったとする意見が多かった。競争意識が高まったことについては、肯定的評価が全体の約5割であり、統合によりきっかけになったと考えられる。いじめやけんかなどのトラブルに学校が迅速に対応してくれることについては、肯定的評価が全体の約4割、中間的評価が約5割であり、変化を実感するほどではない。

これらのことは、学校の適正規模化が図られたことにより概ね、活力ある学習活動や部活動の展開、学習集団の柔軟化、集団活動を通じた人間関係の広がりなどの実現が図られ、教育活動におけるさまざまな課題の解消につながっていると捉えられる。

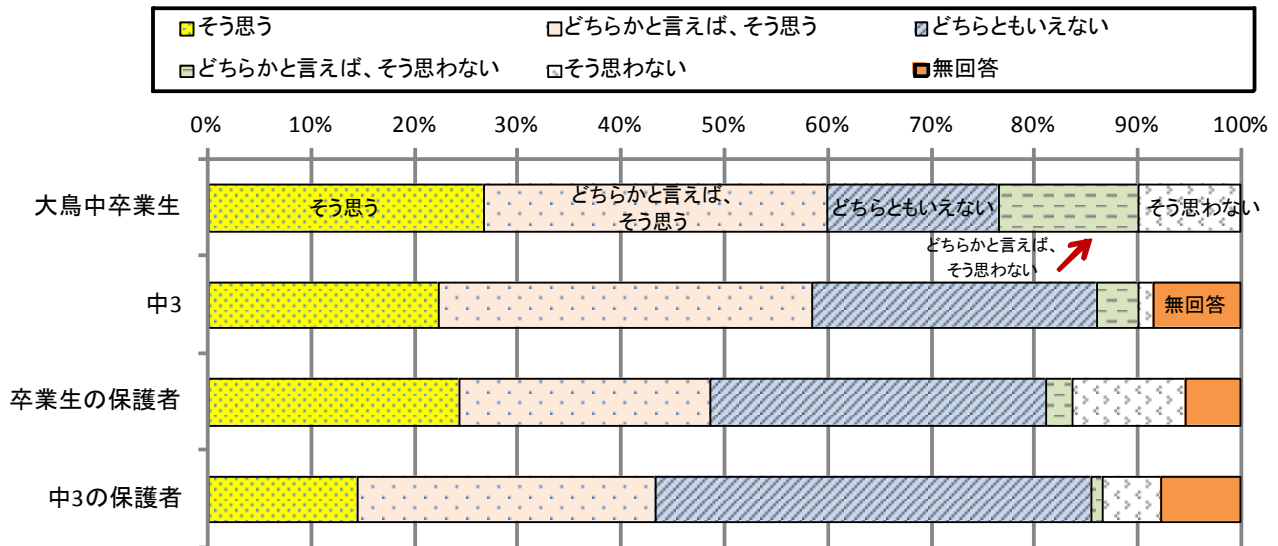
2 学校生活 ※卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者

(1) 勉強する意欲が高まった。

【対象: 卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約5割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約3割を、否定的評価(「そう思わない」「どちらかと言えば、そう思わない」)が約1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	8	10	5	4	3	0	30
中3	29	47	36	5	2	11	130
卒業生の保護者	9	9	12	1	4	2	37
中3の保護者	15	30	44	1	6	8	104
計	61	96	97	11	15	21	301
	20.3%	31.9%	32.2%	3.7%	5.0%	7.0%	100%

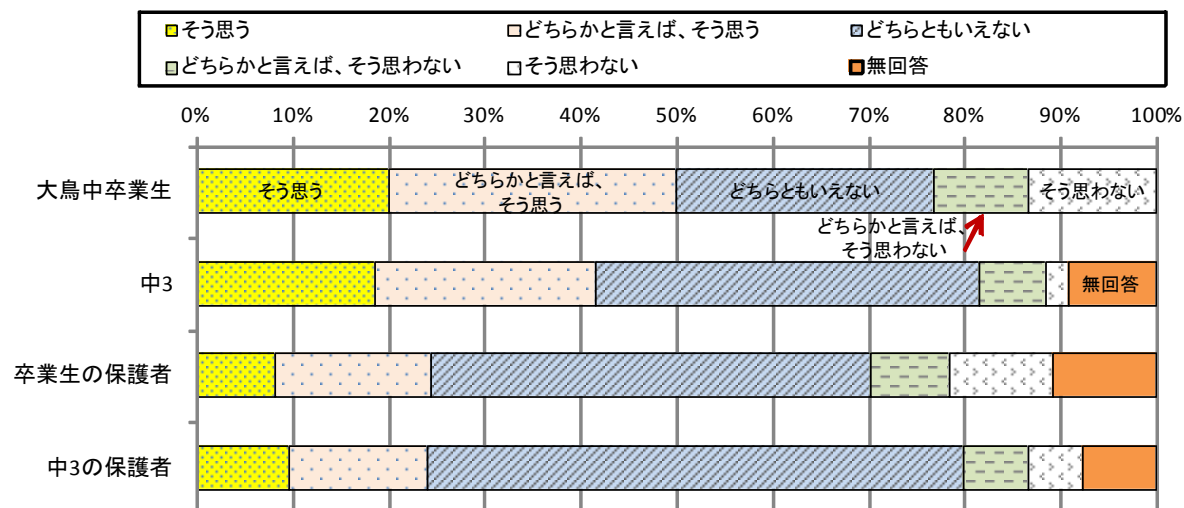


(2) 意見や発表をしやすくなった。

【対象：卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約3割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約5割を、否定的評価(「そう思わない」「どちらかと言えば、そう思わない」)が約1割を、無回答が約1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大島中卒業生	6	9	8	3	4	0	30
中3	24	30	52	9	3	12	130
卒業生の保護者	3	6	17	3	4	4	37
中3の保護者	10	15	58	7	6	8	104
計	43	60	135	22	17	24	301
	14.3%	19.9%	44.9%	7.3%	5.6%	8.0%	100%

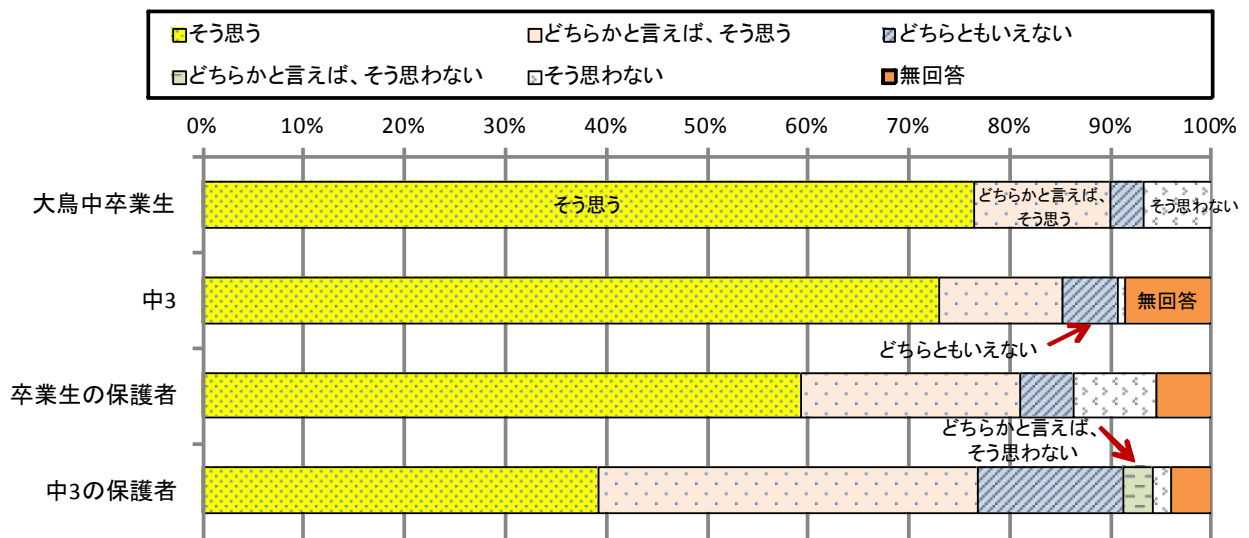


(3) 友人関係が広がった。

【対象: 卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約8割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらとも いえない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	23	4	1	0	2	0	30
中3	95	16	7	0	1	11	130
卒業生の保護者	22	8	2	0	3	2	37
中3の保護者	41	39	15	3	2	4	104
計	181	67	25	3	8	17	301
	60.1%	22.3%	8.3%	1.0%	2.7%	5.6%	100%

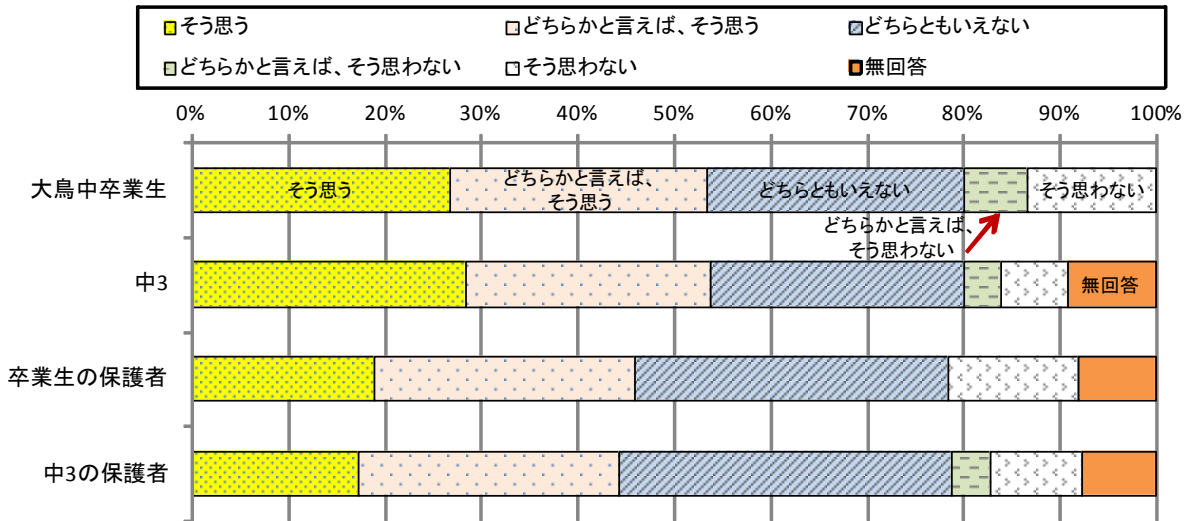


(4) 競争意識が高まった。

【対象：卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約5割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が3割を、否定的評価(「そう思わない」「どちらかと言えば、そう思わない」)が約1割を、無回答が約1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	8	8	8	2	4	0	30
中3	37	33	34	5	9	12	130
卒業生の保護者	7	10	12	0	5	3	37
中3の保護者	18	28	36	4	10	8	104
計	70	79	90	11	28	23	301
	23.3%	26.2%	29.9%	3.7%	9.3%	7.6%	100%

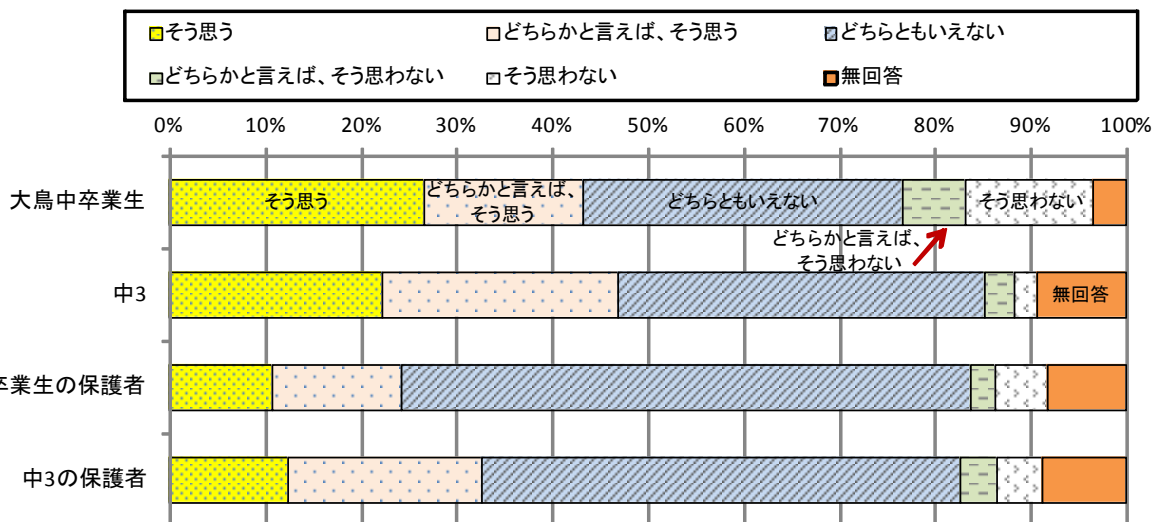


(5) いじめやけんかなどのトラブルに学校が迅速に対応してくれる。

【対象：卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約4割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約5割を、否定的評価(「そう思わない」「どちらかと言えば、そう思わない」)が約1割を、無回答が約1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	8	5	10	2	4	1	30
中3	29	32	50	4	3	12	130
卒業生の保護者	4	5	22	1	2	3	37
中3の保護者	13	21	52	4	5	9	104
計	54	63	134	11	14	25	301
	17.9%	20.9%	44.5%	3.7%	4.7%	8.3%	100%



自由意見（要旨）

○第1期卒業生の私は、1年の少ない時間でも3年以上の深いキズナがたくさん生まれ、思い出を語れと言われたら、大鳥中が8、三中の話が2くらいの割合です。こんなに楽しく面白い話ばかりの1年間ができて、最初は嫌だったけど大好きになりました。家は遠い人が増えただけ、これからも長く付き合っていく人は増えたと思いました。三中よりも大鳥中の方が好きでした。今でも好きです。（大鳥中卒業生）

○最初は不安もあったけど、とても楽しい学校生活を送れた！（大鳥中卒業生）

○色々な小学校から来た友達とたくさん仲良くなれたので、統合は良いと思った。（在校生）

○生徒数が増え、今まで話したことがないお友達とのコミュニケーション能力が養われたと思います。（大鳥中卒業生保護者）

○中学は生徒数が多く、お友達との沢山の経験を積むことが大切だと考えているので、四中との統合は嬉しかったです。（大鳥中卒業生保護者）

○大鳥中に統合されてからは友人も増え、楽しそうでした。（大鳥中卒業生保護者）

○子供同士はたくましく、友達が増えた事を純粋に楽しんでるようです。（大鳥中卒業生保護者）

○学年の人数が増えて友だちも増えたようで楽しく学校生活を送っていたように思います。1人になってしまったりする事がないように統合1年目のクラスわけは、慎重にした方が良いかと思います。（大鳥中卒業生保護者）

○学校統合して、今までにない取組や先生方のご苦労も、保護者として見て感じてはいましたが、子供達の様子に関しては、新しい取組、仲間、環境となったからこうしようとか、こうしていかなくては、みたいな変化はとくに感じられませんでした。（大鳥中卒業生保護者）

○今のところお互い頑張っているが、時間がたつてどのように変化が出るかまだ見守るしか無いと思う。あまり無理なく、子供達の成長を楽しみにしてる。（大鳥中卒業生保護者）

○中2から新校という不安は親のほうが強く感じていました。子どもはあっさりすんなりと受け入れ、日々過ごしていけるものです。（大鳥中卒業生保護者）

○人数が増え、活気がわいて行事、部活動が活発になった点が特に良かった。子どもの交遊関係も広まった。（大鳥中卒業生保護者）

○現在の大鳥中学校は、大変、環境がよいと感じます。三中時代の良さを残しつつ、少し規模が大きくなった学校で、子ども達は人間関係が広がって大変よかったと思います。（在校生保護者）

○本人は学校生活に満足しています。（在校生保護者）

○旧三中は小規模校でしたが、小さいながらの良さがあり親子共々気に入っておりましたが、大鳥中になりクラスも増え、人数も増え、正直、心配な所もありましたが、入ってみると活気があり子供たちの人的交流も活発で、これはこれで良かったなと思います。（在校生保護者）

○統合したことで生徒数や地域の目が増え、教育活動も活発になったことはとてもよかったと思っています。（在校生保護者）

○大きく成長する小学校6年間単級という親の私からは想像するに難しい環境でした。良い所悪い所は勿論ありますが、中学生になりクラスが増え、色々な友達と関われる環境を嬉しく思います。（在校生保護者）

○いろいろな小学校から集まっても子どもたちは出身校などものともせず友達になることもわかりました。（在校生保護者）

○とても良かったと思っています。生徒数が増えたことで友達も気の合う人を見付けやすかったのではないかと思います。子供も学校が楽しいみたいです。下に2人小学校の子がいますが、是非、大鳥中に入れようと思っています。（在校生保護者）

○小学校の出身校が増えたのは、様々な環境の違いを多く知り、お友達もたくさんできるという意味では、統合は良かったと思います。（在校生保護者）

○統合前の少人数にも全員の個々に触れることができるなどたくさんのメリットもあると思うので、統合後はデメリットを重点視していくことも忘れないでと思います（新教育だけでなく）。（在校生保護者）

○統合することにより生徒数も増え、部活動も増え、生徒が出来る活動が幅広くなり、本当によかったと思う。（在校生保護者）

○入学前には不安があり、何度も説明会に出席しました。その不安は、見事に子ども達の力?!によるものが強く、あっという間になくなりました。ガッコに行けば、明るく元気な挨拶・笑顔で子ども達が迎えてくれ活気を感じます。統合し、子ども数が増えたことで、切磋琢磨し学力のUP、学校全体がもっと盛り上がりを見せてくれることを期待しています。それと同時に複雑化する人間関係が多少心配ではあります。（在校生保護者）

- 下の子は不動小卒ですが、今では田道・油面・下目黒小など三中区域の子達が友人として増えて楽しく学校生活をおくれています。統合したからこそ地域も広がり友人のわくも広がったと思います。へんに大人が心配しなくても子供達なりに輪を広げていけるものです。(在校生保護者)
- 碑小から大鳥に入学しました。理由は統合ということで、人数も増え先生や生徒に活気があるのではないかと期待したからです。実際、期待どおりでとても満足しています。(在校生保護者)
- 三・四中時代から多くの先生の努力で生徒たちが前向きに統合に向かう気持ちができたことで、昨年の3年生は、活発に積極的に学校生活を送っていたと思う。その先輩たちの姿を見て、現3年生・2年生へと気持ちや姿勢が受け継がれている。(在校生保護者)
- 生徒数が増え、友人もその分選択しやすくなって良かったと思います。(在校生保護者)
- 統合で最も心配していた生徒同士の交流についても何の問題もなく、友人が増え、ご指導の賜物と感謝しております。(在校生保護者)
- 現状がよかったということもあって、子どもたちが元三中・元四中なんて大人ほど気にしていないように思います。(在校生保護者)
- 自然な形で交流し、統合していく上で熱心さが感じられ、ご尽力ありがとうございます。生徒達の分裂もなく、いじめもなく、仲間はずれもなく、みんな思いやりの心をもちながら、相手を認めていくような感じを行事の時に感じました。職員の方々もいつも熱心に指導されている姿が、生徒達もあまりモソモソした姿でなく、ホワンホワンした感じで幸せな空気の中にいられるのも環境を考えていただいているおかげだと思っています。あまり統合するのどうかと思っていますが、生徒数が増えたことで活気があるのも大切だし、いろんな人とふれあい悩むのも社会性を培う大切な要因となるので、年度(3年間のうち2年生)途中でしたが自然と交わっているので違和感なく学校生活を楽しんでいるようで安心しています。(在校生保護者)
- 学校統合により人数が増える事は活発な活動が多くなる事につながっていると思いますが、人数が少なかった四中では、先生方がとても細やかにご指導いただきアットホームな感じだったので子供のこは今でも四中の方が楽しかったと言っています。ただ、学校閉校という一年に色々な気持ちを持ち、結束力を感じ、貴重な体験を先生方とともに経験できた事は、きっと長い人生のなかでも忘れられない1年になるのではと親としては感じております。又、校長先生の前向きな姿勢、行動力、引率力には本当に感謝しております。それぞれが色々な複雑の思いで集まっている統合ではありますが、先生のお言葉により、先生がおっしゃっているから仕方ないかと思える事はたくさんございました。(在校生保護者)
- 大鳥中は、三中・四中との統合が比較的良好だったと思う。生徒の数が増えたことにより、活気に満ちていて雰囲気はよい。反面、地域が広がったことにより、学校からのお知らせもどこまでするのか悩みどころと思われる。前〜とか元〜という方々は、そろそろご遠慮したいという声も聞くので、見直してもよいと思う。(地域関係者)
- 人数が増えたことにより、友達の幅が増し、相談相手が多くなり、いじめが生じにくい環境となった(生徒に聞いた)。また、学校が楽しいとのこと。(地域関係者)
- 先日、非常勤の仕事で大鳥中を訪問する機会がありました。三中のころと比べ、全体に活気がありました。また、生徒の表情が明るく生き生きとしているようで、統合が上手く行ってるように感じました。(地域関係者)

大鳥中学校校長ヒアリング

- 両校の特徴は交流の時点で気付いていた。教員には「最初から無理をせず徐々に両校のすりあわせをしてほしい」と伝えた。
- 教員間で、遠慮せず両方の良さを出していこうとした。
- 三中生の部活動への取組みや明るさ、四中生の勉強への姿勢など、統合して互いの良さが分かり刺激になったのではないかと。
- 勉強する意欲の向上については、グループダイナミクス(大きな集団の中での触発)により触発される点大きい。
- 友達が増えたことは、まさにダイバーシティ(多様性)だ。学校間の交流を丁寧に行ったのが良かった。
- 競争意識が増したのは、切磋琢磨する環境ができたからだと思う。勉強、運動の両面から成果が多くあり、それをタイムリーに褒めるように心がけている。

(2) 標準服、体育着

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア 新しい標準服が気に入った。

⇒肯定的評価の割合が全体の約8割を、中間的評価が約1割を占めている。

イ 新しい体育着が気に入った。

⇒肯定的評価の割合が全体の約7割を、中間的評価が約2割を、否定的評価が約1割を占めている。

検証結果

この設問は、生徒が部会員として加わり、広く意見を聞きながら選定した標準服や体育着についての実感を調査するものである。

その結果によると、高い肯定的評価を得ており、生徒の一体感の醸成に寄与してるものと考ええる。

これは、標準服や体育着の選定のプロセスが妥当であったことを表している。

「校章・校旗、校歌部会」においても同様に生徒が部会員として加わり、校章や校歌、スクールカラーについて、生徒から校章の図案や校歌に入れたいフレーズの募集など様々な意見を取り入れる形での検討を行っている。

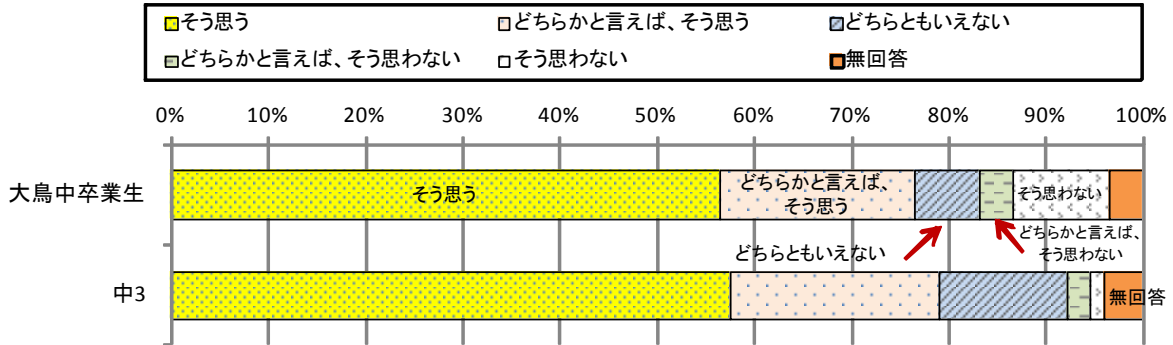
3 標準服等

(1) 新しい標準服が気に入った。

【対象:卒業生、中3】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約8割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	17	6	2	1	3	1	30
中3	75	28	17	3	2	5	130
計	92	34	19	4	5	6	160
	57.5%	21.3%	11.9%	2.5%	3.1%	3.8%	100%

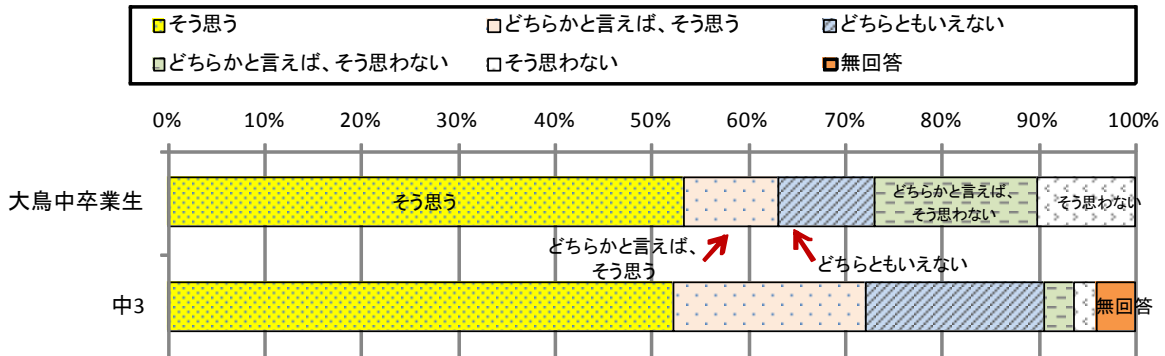


(2) 新しい体育着が気に入った。

【対象:卒業生、中3】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約7割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を、否定的評価(「そう思わない」「どちらかと言えば、そう思わない」)が約1割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	16	3	3	5	3	0	30
中3	68	26	24	4	3	5	130
計	84	29	27	9	6	5	160
	52.5%	18.1%	16.9%	5.6%	3.8%	3.1%	100%



自由意見（要旨）

- 新しい制服や体操着がいらなかった、ムダだと思う。他のことに使ってほしい。（卒業生保護者）
- 姉の制服、体操着を妹も着る予定でしたが、全て購入しなければならなく、購入額も高く、家庭の負担がかなり増えた。私立でないのです、制服など高すぎ。“姉妹”の様な補助があれば良かったです。（在校生保護者）
- 制服、校歌は、子供達よりも大人の意見を参考にしてもよかったと思う。（在校生保護者）
- 個人的に不満があるとすれば、体操着ジャージの素材がうす地で弱くてすぐやぶれる点。上の子の四中のときはしっかりした生地でした。冬も寒いし、へんにブランドにこだわらず3年間着用を意識したものを選んでほしかったです。本当それだけが残念です。（在校生保護者）
- 1年間だけのために学ランを用意したのはムダを感じる。リサイクルなどをもっと活発に行って欲しい。（在校生保護者）
- 限られた時間で準備をしていくので大変だと思いますが、制服のアンケートをとったのと同時に体育着もアンケートがとられても良いのかなと思います。生徒から聞いたところ「ださい。」「前の方が良かった。」との意見もありました。機能性も大事ですが着用する生徒の意見をもう少し入れても良いと思います。代表生も一緒に決めていくのだとは思いますが。（地域関係者）
- 校章・校歌や標準服(体育着)の委員会も良かったと思います。あの形式の委員会が良いです。ただし、委員会に入る教員は新校に残る教員が良いです。（地域関係者）

大鳥中学校長ヒアリング

- 標準服部会の部会員に生徒が入ったのが良かった。生徒からの目線を取り入れることができた。生徒や保護者を巻き込むいいアイデアだった。
- アンケート実施後に、デザイン画と実物見本の両方示したのも良かった。プレゼンテーションの時に、子どもに着せる・触ることで実際の様子があった。小学校にも展示して投票してもらうなど、色々な意見が集約できた。手間が掛かったが、標準服・体育着とも評判が良い。
- 校歌、校章やスクールカラーを決めることも生徒たちの意見を反映させた。
- 自分達の手作りの学校という意識づくりができた。教育目標の「自主、協働、創造」を常に意識しており、自分達でさらによりよい学校を創っていこうという意欲につながっていった。
- 開設準備委員会を中心に、PTA や地域が開校前から交流を重ねて下さったおかげで、開校時には学校応援団のネットワークも広がっていた。

(3) 施設環境

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア 学校施設が改修され、学校生活が過ごしやすくなった。

⇒肯定的評価の割合が全体の約6割を、中間的評価が約1割を、無回答が約2割を占めている。

イ 生徒用ロッカーが用意され、学校生活が役に立った。

⇒肯定的評価の割合が全体の約7割を、中間的評価が約1割を、無回答が約2割を占めている。

検証結果

この設問は、既存校舎の活用による学校統合について、その変化の実感を調査するものである。

学校施設が改修され、学校生活が過ごしやすくなったことについて、高い肯定的評価を得ており、校舎、体育館棟の内装改修等により工夫して取り組んだことが妥当であったと捉えられる。

なお、第三中学校の改修にあたっては、平成25年度から26年度の2か年かけて進め、教育活動に極力影響を及ぼさないように、夏休みなどの長期休業期間や週末などを中心に行い、他の時期に行う場合でも、教育活動に支障の出ないように配慮しながら行ったことも適切であったと考えられる。

また、生徒用ロッカーは、学校生活に役立ったことについて、高い肯定的評価を得ており、通学に係る負担への配慮等が適切であったと捉えられる。

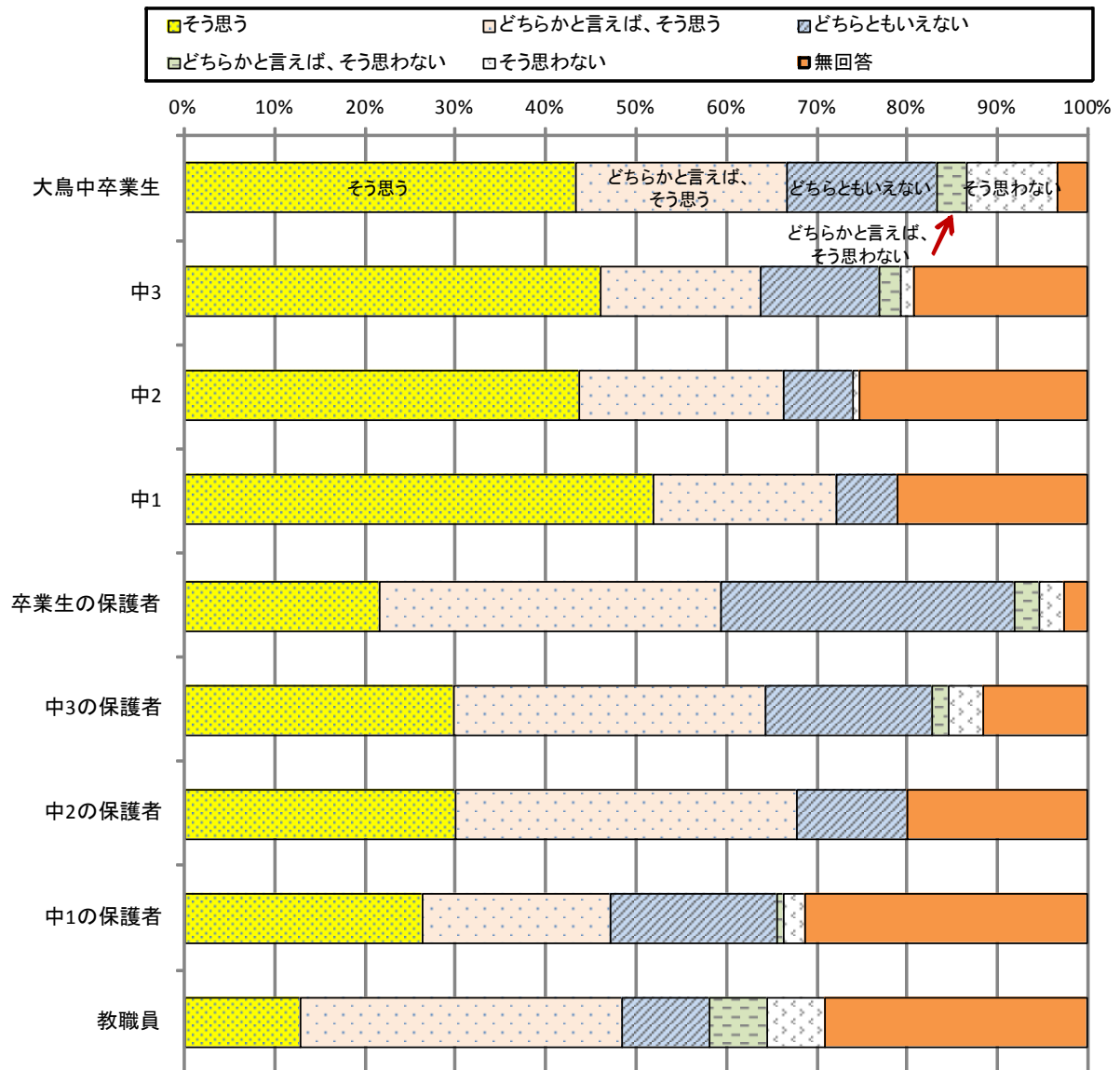
4 施設環境

(1) 学校施設が改修され、学校生活が過ごしやすくなった。

【対象: 卒業生、卒業生の保護者、全生徒、全生徒の保護者、教職員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約6割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約1割を、無回答が約2割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、 そう思う	どちらともい えない	どちらかと言 えば、そう思 わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	13	7	5	1	3	1	30
中3	60	23	17	3	2	25	130
中2	52	27	9	0	1	30	119
中1	69	27	9	0	0	28	133
卒業生の保護者	8	14	12	1	1	1	37
中3の保護者	31	36	19	2	4	12	104
中2の保護者	27	34	11	0	0	18	90
中1の保護者	33	26	23	1	3	39	125
教職員	4	11	3	2	2	9	31
計	297	205	108	10	16	163	799
	37.2%	25.7%	13.5%	1.3%	2.0%	20.4%	100%

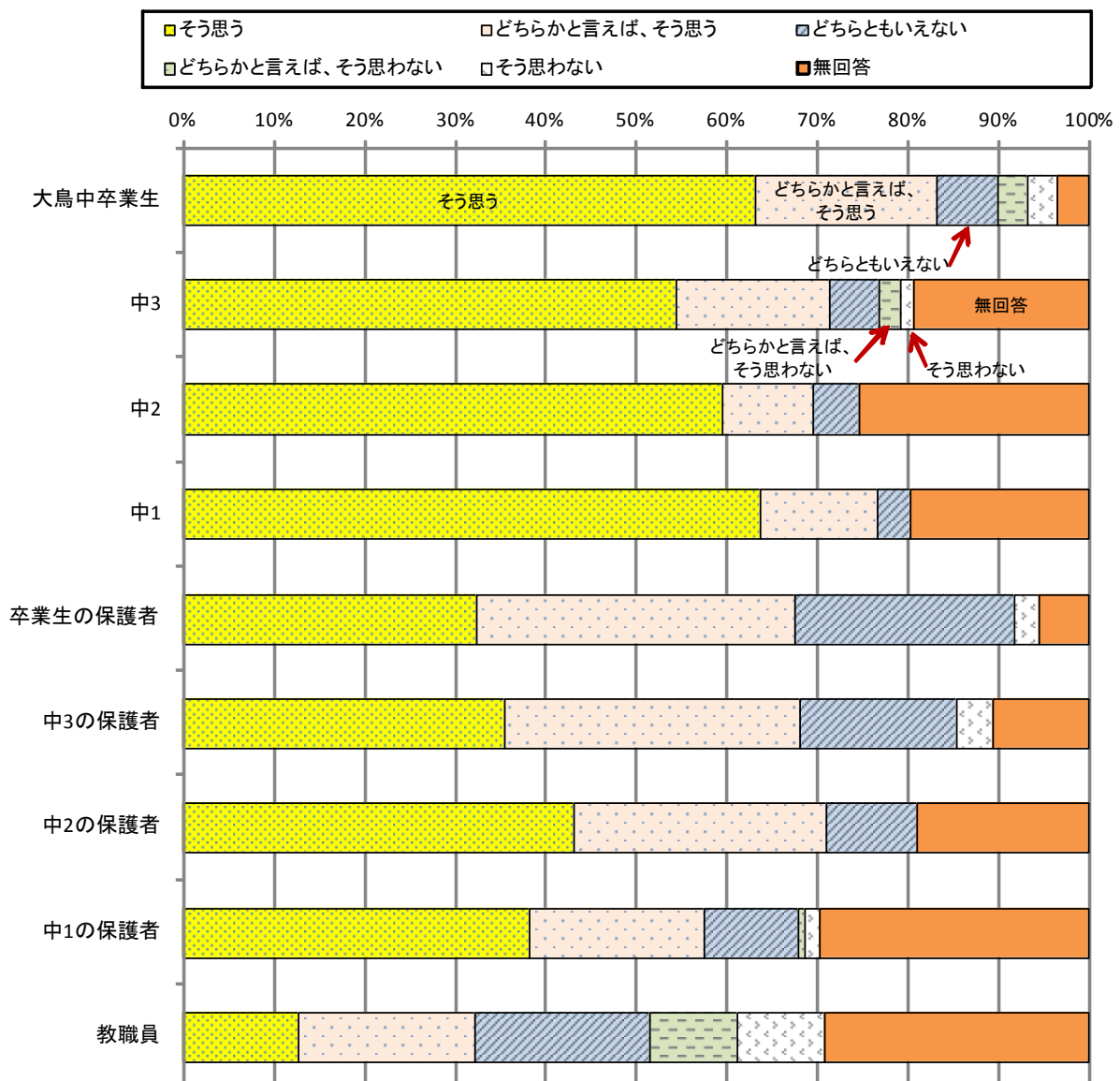


(2) 生徒用ロッカーが用意され、学校生活に役立った。

【対象：卒業生、卒業生の保護者、全生徒、全生徒の保護者、教職員】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかと言えば、そう思う」)の割合が全体の約7割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約1割を、無回答が約2割を占めている。

	そう思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらともいえない	どちらかと言えば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	19	6	2	1	1	1	30
中3	71	22	7	3	2	25	130
中2	71	12	6	0	0	30	119
中1	85	17	5	0	0	26	133
卒業生の保護者	12	13	9	0	1	2	37
中3の保護者	37	34	18	0	4	11	104
中2の保護者	39	25	9	0	0	17	90
中1の保護者	48	24	13	1	2	37	125
教職員	4	6	6	3	3	9	31
計	386	159	75	8	13	158	799
	48.3%	19.9%	9.4%	1.0%	1.6%	19.8%	100%



自由意見（要旨）

■学校施設

○人が増えたので少しきゆうくつに感じる。（在校生）

○各学年4クラス程度となるのであれば、各学年ごとに学年ルームあるといいのではないかと。次回統合では、学校を新しく準備した方がよいのではないのでしょうか。（大鳥中学校卒業生）

○体育館もサブアリーナを作るか、部活動の数をしぼらないと難しいと感じた。校庭を広げる。（大鳥中学校卒業生）

○大鳥中学校には階段がなく、エレベーターの設置も物理的に不可能とのことでした。わかたけ学級の生徒にとっては、本校での学校生活が1階に限定されています。1学期の参観の際には朝の会を調理室で行い、授業は理科室…など空いている教室を転々と移動するということもあり、子どもも落ち着けない様子でした。2階にある図書室も利用できず、生徒間の交流の機会も限定されています。肢体不自由児にとりバリアのある環境は影響が多大です。統合の際には、肢体不自由児にとってのバリアフリーも検討していただきかったですと思います。大鳥中にエレベーターを設置できないのであれば、設備のある他の中学校にわかたけ学級を所属させるのも一案だったのではないのでしょうか。（在校生保護者）

○校舎の改修は、もうすこしあってもよいかなと感じた。（在校生保護者）

○特別支援学級の生徒が利用する場所が体育館の奥に設置されており、もう少し全体の職員室や校門、通常級に近い場所に確保していただきかったです。そうすれば、彼らの学校活動がよりスムーズになり、災害時の迅速な対応にもつながるのではないのでしょうか。生徒や保護者への自然な理解にもつながるような気がします。今後の統合に役立てて欲しいと思います。（在校生保護者）

○旧四中と比べて施設も良い。（在校生保護者）

○中学生になると身体も成長してくるので、1クラスに40人は狭いと感じた。前方は指導など行き届くと思うが、後方の席まで前方と同様に対処ができるのか不安に思う。（在校生保護者）

○学校の玄関(正門)の表示文字を変えてほしい。（在校生保護者）

○生徒数に対して教室数が少ない。（教職員）

○既存の学校を利用しているため学級数が増え、学年会等が使える集会所などに不足を感じる。（教職員）

○生徒数増加に対して、学校の設備や教室・特別教室などが追いついてない→流しの数、机(特別教室)の数、少人数授業展開時の教室数…等々(教職員)

■生徒用ロッカー

○ロッカーを大きくして。（在校生）

○大鳥中学に満足していますが、唯一の(そしてとても大きな)問題は、子どもが学区のはしに住んで距離が遠いにもかかわらず、ロッカーに置ける物に規制があり、非常に重い荷物を持ち運ばなければならないことです。さながら登山部の訓練のよう。副教材が多く、そこは先生方の教育熱心さによるものなので、有難い反面悩ましい問題です。（在校生保護者）

○ロッカーは設置されているが、かぎがかけられないので置き放しは心配な為、毎日の荷物の多さは変わらない。かぎがあればよいと思います。（在校生保護者）

○ロッカーの設備や、ジャージ登校時に安全面で不安のあったジャージ表面への記名を取りやめて下さった事、ご配慮ありがとうございました。（在校生保護者）

○生徒用ロッカーは破損しやすく、中身も見えずバッグも入りこいたため使い勝手が悪いです。（教職員）

大鳥中学校長ヒアリング

○習熟度別授業の実施などを考えると、現在の学校規模に対しちょうどいい。

○引っ越しが少なかったのは良かった。生徒・保護者は、授業時間が削られるなど子どもに負担が大きいと思っていたようだ。「引っ越しは無さそう」となってからは雰囲気が変わった。

○わかたけ学級は、以前からエレベーター・スロープなどの要望がある。

○管理上、生徒用ロッカーの鍵は学校で預かっている。

(4) 通学区域

設問 学校統合により大鳥中学校が開校してどう思いますか。

ア 通学距離

⇒長くなったが全体の約3割を、短くなったが約1割を、変わらないが約5割を占めている。

イ 通学距離が長くなったと回答した者に対し) 通学距離が長くなったが、特に気にならない。

⇒肯定的評価の割合が全体の約5割を、中間的評価が約2割を、否定的評価が約2割を占めている。

ウ (通学距離が長くなったが、特に気にならないという設問に対し否定的回答をした者に対し) どういう点が気になりますか。

⇒起床への不安が1番目に件数が多く、体力面への不安が2番目であった。

検証結果

この設問は、通学区域が拡大したことにより、通学距離が長くなることについての変化の実感を調査するものである。

通学距離が長くなることについては、特に気にならないことについての肯定的評価が全体の約5割、中間的評価が約2割であり、その設定が概ね理解されたと考えられる。新校の通学区域は、原則として都合する各校の通学区域を合わせたものとし、学校・保護者・地域の方々の意見を十分に考慮し、必要に応じて通学区域の一部変更、調整区域の設置等を行うものとしているものである。

ただし、否定的評価が約2割あり、起床や体力面に不安のあることも考慮しなければならない。

5 通学区域

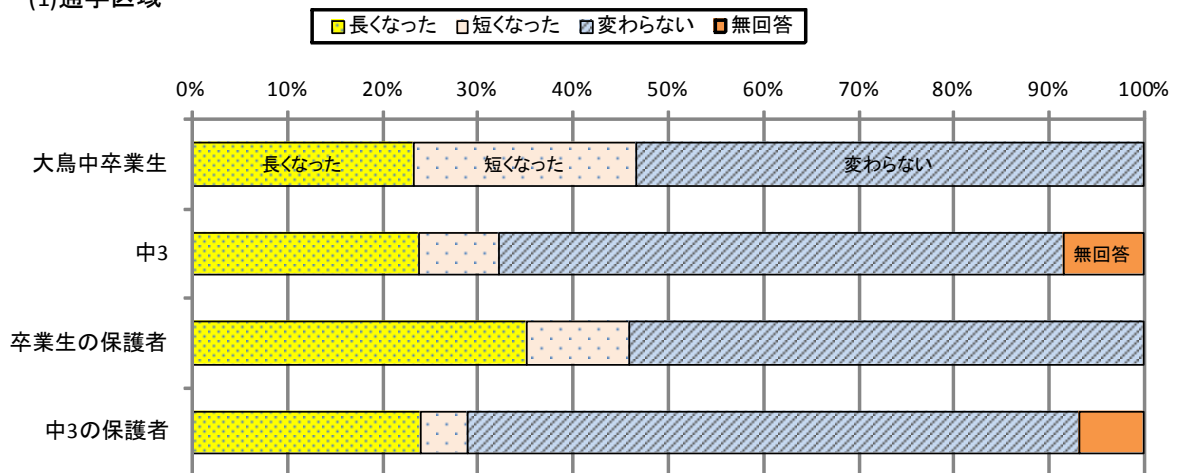
(1) 通学区域

【対象：卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者】

結果 「長くなった」の割合が全体の約3割を、「短くなった」が約1割を、「変わらない」が約6割を占めている。

	長くなった	短くなった	変わらない	無回答	計
大鳥中卒業生	7	7	16	0	30
中3	31	11	77	11	130
卒業生の保護者	13	4	20	0	37
中3の保護者	25	5	67	7	104
計	76 25.2%	27 9.0%	180 59.8%	18 6.0%	301 100%

(1)通学区域



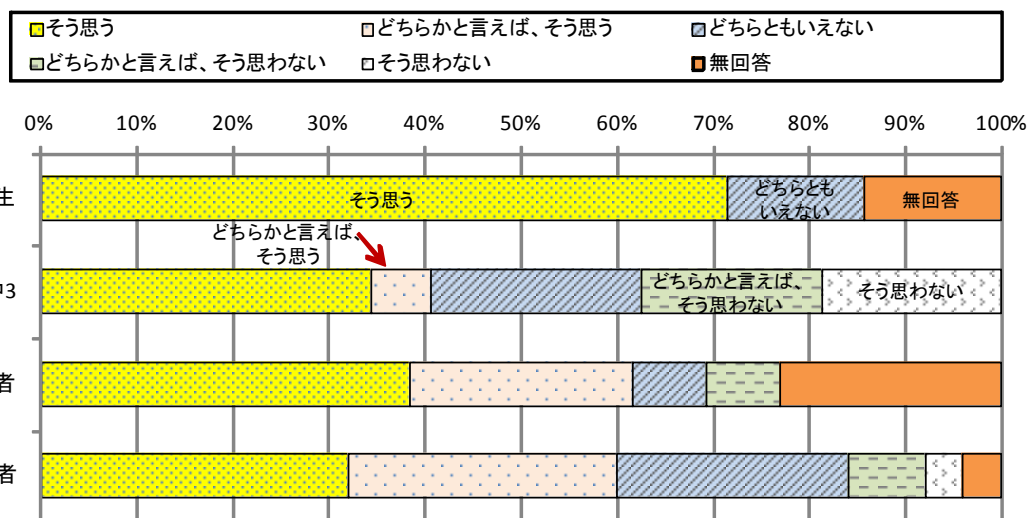
(1)-1 通学距離が長くなったが、特に気にならない。

【対象：通学距離が長くなったと回答した卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者】

結果 肯定的評価(「そう思う」「どちらかといえばそう思う」)の割合が全体の約5割を、中間的評価(「どちらともいえない」)が約2割を、否定的評価(「そう思わない」「どちらかといえば、そう思わない」)が約2割を占めている。

	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらともいえない	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答	計
大鳥中卒業生	5	0	1	0	0	1	7
中3	11	2	7	6	6		32
卒業生の保護者	5	3	1	1	0	3	13
中3の保護者	8	7	6	2	1	1	25
計	29	12	15	9	7	5	77
	37.7%	15.6%	19.5%	11.7%	9.1%	6.5%	100%

(1)-1通学距離が長くなったが、特に気にならない。



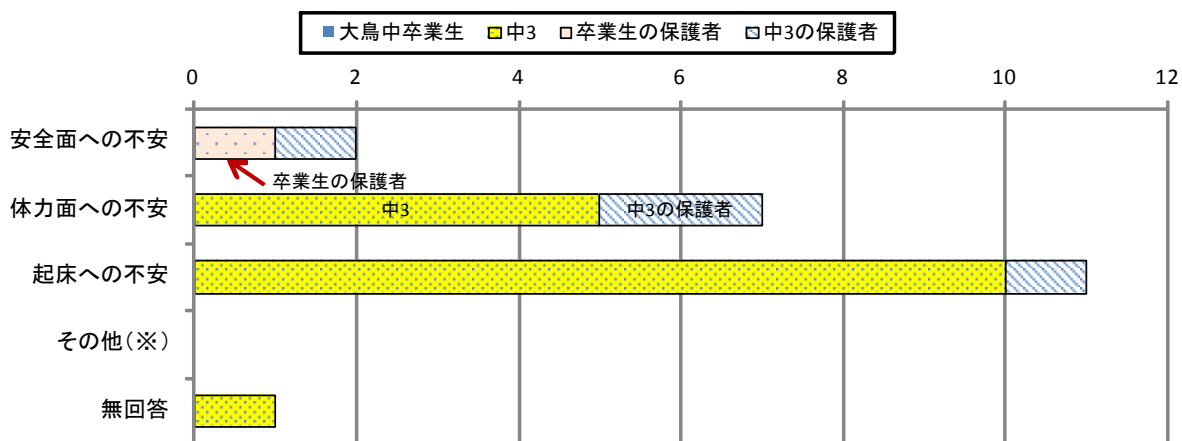
(1)-2 どういう点が気になりますか。(複数回答可)

【対象:通学距離が長くなったが気にならなくなったという設問に対し否定的な回答をした卒業生、卒業生の保護者、中3、中3の保護者】

結果「起床への不安」が1番目に件数が多く、「体力面への不安」が2番目であった。

	安全面への不安	体力面への不安	起床への不安	その他(※)	無回答	計
大鳥中卒業生	0	0	0	0		0
中3	0	5	10	0	1	16
卒業生の保護者	1	0	0	0		1
中3の保護者	1	2	1	0		4

(1)-2 どういう点が気になりますか。



自由意見（要旨）

- 遠くから通学しなければならぬ子ども達への配慮をお願いします。部活動の再登校のシステムがなくなって（忘れ物以外）、訴え続けたことが実現して嬉しく思っています。（在校生保護者）
- 小学校、旧第4中が自宅から近かった為、子供はそこだけが嫌だと言っていますが、地域が広がった事で友達が増えて良かったと思っているようです。（在校生保護者）
- 学区が広い為、学校まで距離があるのが難点ですが、それに対応していける力を養う良い機会と考えれば良かったかな？とも思います。（在校生保護者）
- 中には、かなり学校が統合により遠くなった子もいるようで、再登校の時など苦労していると聞きます（配慮があるのは知っていますが、それでも…なようです。）。まだ統合は進められているようですが、良くなる事ばかりでなくそういった子どもたちの事を優先的に考えて、安全で快適に過ごせる学校作りをお願いします！経費節減ではなく「主役は子どもたち」の目線をお願いします!!（在校生保護者）
- 学区域が広がって遠くなった。色々と考えていただいているのは良くわかりました。（統合したことによって）（在校生保護者）
- 通学が遠くなってしまいましたが、中学生には通えない距離ではないので問題ないと感じます。（在校生保護者）
- 通学が遠くなってしまったため、部活があると遅くなり心配。通学路も何通りにもなるので迎えにも行けず、その辺も考えて統合する事が出来たら良いと思います。（在校生保護者）
- どうしても登下校の距離が遠くなるので、特別な時はバス利用などできるとよいかと思う。再登校の時、図書館を解放しているのはとても良いとくみだと思ふ。（在校生保護者）
- 油面小学校は、目黒中央中と大鳥中に分かれて進学します。この点について長所・短所はあると思いますが、児童の心情を察するといかがなものでしょうか。という想いはあります。（地域関係者）

大鳥中学校長ヒアリング

- 統合前の説明会で保護者から色々意見があり、生徒用ロッカーの設置に繋がった。
- 先日、地域の方に生徒との面談をお願いし、生徒に「統合してどうか」と聞くと「楽しい」「良かった」と好評価だった。また「学校が遠くなったのでは」と訊くと「遠くなっても友達と話ながら通学するので、友情が深まる」という意見もあったそうだ。
- 油面小の進学先が学区域により目黒中央中と分かれることについて意見があった。